

【表紙】

【提出書類】 有価証券報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2026年3月27日

【事業年度】 第29期(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

【会社名】 サイボウズ株式会社

【英訳名】 Cybozu, Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 青野慶久

【本店の所在の場所】 東京都中央区日本橋二丁目7番1号

【電話番号】 03 - 6671 - 9525

【事務連絡者氏名】 経営支援本部長 林 忠 正

【最寄りの連絡場所】 東京都中央区日本橋二丁目7番1号

【電話番号】 03 - 6671 - 9525

【事務連絡者氏名】 経営支援本部長 林 忠 正

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第25期	第26期	第27期	第28期	第29期
決算年月	2021年12月	2022年12月	2023年12月	2024年12月	2025年12月
売上高 (百万円)	18,489	22,067	25,432	29,675	37,430
経常利益 (百万円)	1,468	987	3,579	5,335	10,325
親会社株主に帰属する 当期純利益 (百万円)	551	66	2,488	3,555	7,081
包括利益 (百万円)	470	427	2,719	3,973	7,406
純資産額 (百万円)	6,371	4,630	11,253	11,633	17,815
総資産額 (百万円)	14,037	15,907	19,248	21,087	30,140
1株当たり純資産額 (円)	138.88	100.93	236.33	251.69	385.13
1株当たり当期純利益 (円)	12.03	1.45	52.29	74.99	153.17
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	45.4	29.1	58.5	55.2	59.1
自己資本利益率 (%)	8.6	1.2	31.3	31.1	48.1
株価収益率 (倍)	152.2	1,672.9	41.7	38.6	18.4
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	472	1,328	4,548	5,601	10,676
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,492	3,121	2,532	3,089	3,102
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	1,695	1,929	777	3,599	1,388
現金及び現金同等物 の期末残高 (百万円)	4,805	5,124	6,492	5,589	11,694
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数) (人)	969 (143)	1,115 (142)	1,276 (124)	1,321 (118)	1,356 (138)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第26期の期首から適用しており、第26期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第25期	第26期	第27期	第28期	第29期
決算年月	2021年12月	2022年12月	2023年12月	2024年12月	2025年12月
売上高 (百万円)	18,021	21,388	24,635	28,743	36,214
経常利益 (百万円)	3,214	3,083	4,493	6,347	11,724
当期純利益 (百万円)	226	113	2,419	3,401	6,967
資本金 (百万円)	613	613	613	613	613
発行済株式総数 (株)	52,757,800	52,757,800	52,757,800	52,757,800	52,757,800
純資産額 (百万円)	5,084	3,357	9,855	10,068	16,082
総資産額 (百万円)	12,974	14,911	18,172	19,827	28,292
1株当たり純資産額 (円)	110.83	73.18	206.96	217.89	347.78
1株当たり配当額 (うち1株当たり 中間配当額) (円)	12.00 (-)	13.00 (-)	14.00 (-)	30.00 (-)	40.00 (-)
1株当たり当期純利益 (円)	4.94	2.47	50.84	71.76	150.69
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	39.2	22.5	54.2	50.8	56.8
自己資本利益率 (%)	4.3	2.7	36.6	34.1	53.3
株価収益率 (倍)	370.3	982.6	42.9	40.4	18.7
配当性向 (%)	242.7	526.9	27.5	41.8	26.5
従業員数 (外、平均臨時 雇用者数) (人)	737 (143)	870 (141)	1,003 (123)	1,030 (118)	1,080 (107)
株主総利回り (比較指標：配当込み TOPIX) (%)	71.5 (112.7)	95.0 (110.0)	86.0 (141.1)	115.0 (169.9)	113.4 (213.2)
最高株価 (円)	2,866	2,800	3,270	2,995	4,160
最低株価 (円)	1,815	819	1,636	1,298	2,253

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 最高株価及び最低株価は、2022年4月4日以降は東京証券取引所プライム市場におけるものであり、それ以前は東京証券取引所市場第一部におけるものであります。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を第26期の期首から適用しており、第26期以降に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2 【沿革】

1997年 8月	愛媛県松山市にサイボウズ株式会社設立
1997年10月	「サイボウズ Office」シリーズ発売
1998年12月	事業拡大のため、大阪市北区茶屋町に本社機能移転
1999年12月	事業拡大のため、大阪市北区梅田に本社機能移転
2000年 5月	東京オフィス設置開設
2000年 8月	東京証券取引所マザーズ上場
2000年12月	事業拡大のため、東京都文京区後楽に本社機能移転
2002年 3月	東京証券取引所市場第二部へ市場変更
2002年 9月	大規模向けグループウェア「サイボウズ ガルーン」発売開始
2005年 5月	「サイボウズファイナンス有限公司」を設立
2005年 7月	「サイボウズファイナンス有限公司」が「株式会社インフォニックス」を買収し、その後両社は合併し存続会社を「株式会社インフォニックス」(連結子会社)とする
2005年 8月	サイボウズの研究所としてテクノロジーを追求すべく「サイボウズ・ラボ株式会社」(連結子会社)を設立
	「クロス・ヘッド株式会社」(連結子会社)の株式を取得、子会社化
2005年11月	「cybozu.net(サイボウズ・ドットネット)株式会社」(持分法適用関連会社)を設立
2005年12月	「ユミルリンク株式会社」(連結子会社)の株式を取得、子会社化
2006年 3月	「フィードパス株式会社」(連結子会社)の株式を取得、子会社化
2006年 5月	「サイボウズ・メディアアンドテクノロジー株式会社」(連結子会社)の株式を取得、子会社化
	「株式会社プリングアップ」(連結子会社)の株式を取得、子会社化
	大阪オフィス開設
2006年 6月	「株式会社ジェイアド」(連結子会社)の株式を取得、子会社化
	「インテグラート・ビジネスシステム株式会社」(連結子会社)の株式を取得、子会社化
	「沖縄クロス・ヘッド株式会社」(連結子会社)の株式を取得、子会社化
2006年 7月	東京証券取引所市場第一部へ市場変更
2007年 5月	「才望子信息技术(上海)有限公司」(中国現地法人)を設立
2007年 7月	「フィードパス株式会社」の第三者割当増資に伴い、連結子会社から持分法適用関連会社へ異動
2008年 1月	「クロス・ヘッド株式会社」の株式を一部売却し連結の範囲から除外
	「沖縄クロス・ヘッド株式会社」を連結子会社から持分法適用関連会社へ異動
2008年 3月	「沖縄クロス・ヘッド株式会社」の株式を一部売却し、持分法適用関連会社の範囲から除外
	松山オフィス開設
2008年12月	「Cybozu Vietnam Co., Ltd.」(ベトナム現地法人)を設立
2009年 1月	連結子会社の「インテグラート・ビジネスシステム株式会社」が「サイボウズ総合研究所株式会社」へ社名変更
2009年 5月	「株式会社インフォニックス」の株式を一部売却し、連結の範囲から除外
2009年12月	「フィードパス株式会社」の第三者割当増資に伴い、持分法適用関連会社の範囲から除外
	「株式会社プリングアップ」の株式を売却し、連結の範囲から除外
2010年 2月	重要性の向上により「才望子信息技术(上海)有限公司」(中国現地法人)を連結子会社化
2010年 6月	「サイボウズ・メディアアンドテクノロジー株式会社」の全事業を売却し、特別清算の手続き開始に伴い、連結の範囲から除外
2010年 8月	「サイボウズスタートアップス株式会社」を設立し、連結子会社化
2011年 1月	重要性の低下により「株式会社ジェイアド」を連結の範囲から除外
	「cybozu.net(サイボウズ・ドットネット)株式会社」を吸収合併
2011年 2月	「ユミルリンク株式会社」の全株式を売却し、連結の範囲から除外
	重要性の向上により「Cybozu Vietnam Co., Ltd.」(ベトナム現地法人)を連結子会社化
2011年 8月	「CYBOZU CORPORATION」(米国現地法人)を設立し、連結子会社化
2011年11月	独自開発クラウド基盤「cybozu.com」上でサービス提供開始(「kintone」「サイボウズ Office on cybozu.com」「Garoon on cybozu.com」「メールワイズ on cybozu.com」を順次発売開始)

2013年 8月	名古屋オフィス、及び福岡オフィス開設
2014年 3月	「サイボウズスタートアップス株式会社」の株式一部売却及び第三者割当増資により、連結の範囲から除外
2014年 7月	「株式会社ジェイヤド」(非連結子会社)の株式を一部売却し、持分法非適用関連会社化
2015年 7月	事業拡大のため、東京オフィスを日本橋へ移転
2015年10月	仙台オフィス開設
2016年 3月	連結子会社の「CYBOZU CORPORATION」(米国現地法人)が「Kintone Corporation」へ社名変更
2017年 9月	台湾事務所開設
2018年 8月	サイボウズ総合研究所株式会社を清算し、連結の範囲から除外
2019年 1月	台湾での営業強化のため、台湾事務所を台湾支店へ変更し、「日商才望子股份有限公司 台北分公司」を設立
2019年 4月	広島オフィス開設
2019年 6月	持分法非適用関連会社であった「KINTONE AUSTRALIA PTY., LTD.」(オーストラリア現地法人)の株式を取得し連結子会社化
2019年 7月	横浜オフィス開設
2020年11月	タイ駐在員事務所開設
2021年 4月	札幌オフィス開設
2021年 5月	「タイムコンシェル株式会社」(持分法適用化関連会社)の株式を一部売却し、持分法非適用関連会社化
2021年10月	「KINTONE SOUTHEAST ASIA SDN. BHD.」(マレーシア現地法人)を設立
2022年 3月	大宮オフィス開設
2022年 4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより市場第一部からプライム市場へ移行
2022年 8月	重要性の向上により「KINTONE SOUTHEAST ASIA SDN. BHD.」(マレーシア現地法人)を連結子会社化
2023年 6月	「サイボウズ・コネクトシー株式会社」を設立し、連結子会社化
2024年 2月	「Kintone Thai Holdings Co., Ltd.」及び「Kintone (Thailand) Co., Ltd.」(タイ現地法人)を設立し、連結子会社化
2024年 5月	札幌営業所移転開設
2024年 6月	那覇コンタクトセンター開設
2025年 6月	「株式会社エヒメスポーツエンターテイメント」(連結子会社)の株式を取得、子会社化

3 【事業の内容】

当社グループ(当社及び当社の関係会社)は、当社(サイボウズ株式会社)、子会社10社及び関連会社2社により構成されており、グループウェアの開発とライセンス販売、SaaS・クラウド型グループウェア・ネットサービスの提供、及び高付加価値SIの提供を主たる業務としております。

[サイボウズグループ]

グループウェアの開発とライセンス販売 SaaS・クラウド型グループウェア・ネットサービスの提供 高付加価値SIの提供	サイボウズ株式会社 サイボウズ・ラボ株式会社 サイボウズ・コネクトシー株式会社 株式会社エヒメスポーツエンターテイメント 才望子信息技术(上海)有限公司 Cybozu Vietnam Co., Ltd. Kintone Corporation KINTONE AUSTRALIA PTY., LTD. KINTONE SOUTHEAST ASIA SDN. BHD. Kintone Thai Holdings Co., Ltd. Kintone (Thailand) Co., Ltd.
--	--

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 又は出資金	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
サイボウズ・ラボ 株式会社	東京都中央区	10百万円	ソフトウェア技術の 研究開発	100	当社製品を最大限に活かす ため、次世代の情報共有のた めの研究開発を行っておりま す。 役員の兼任：0名
サイボウズ・コネクトシー 株式会社	東京都中央区	10百万円	ソフトウェアの カスタマーサポート	100	当社製品のカスタマーサ ポートを行っております。 役員の兼任：0名
株式会社エヒメスポーツ エンターテイメント	愛媛県松山市	30百万円	プロバスケット ボールクラブ 「愛媛オレンジパイ キングス」の運営	50.15	地域DX推進の拠点となっ ております。 役員の兼任：1名
才望子信息技术 (上海)有限公司 (注) 3	中国 (上海)	80百万円	ソフトウェアの販売	100	中国において、当社製品 の営業活動を行っておりま す。 役員の兼任：0名
Cybozu Vietnam Co., Ltd.	ベトナム (ホーチミン)	26百万円	ソフトウェアの開発	100	ベトナムにおいて、当社製 品の開発活動を行っておりま す。 役員の兼任：0名
Kintone Corporation (注) 3、4	アメリカ (カリフォルニア)	11,524百万円	ソフトウェアの開 発・販売	100	アメリカにおいて、当社製 品の開発及び営業活動を行っ ております。 また、当社より資金貸付を 行っております。 役員の兼任：0名
KINTONE AUSTRALIA PTY., LTD. (注) 3	オーストラリア (シドニー)	557百万円	ソフトウェアの販売	100	オーストラリアにおいて、 当社製品の営業活動を行って おります。 役員の兼任：0名
KINTONE SOUTHEAST ASIA SDN. BHD.	マレーシア (クアラルンプール)	29百万円	ソフトウェアの販売	100	マレーシアにおいて、当社 製品の営業活動を行っており ます。 役員の兼任：0名
Kintone Thai Holdings Co., Ltd. (注) 5	タイ (バンコク)	6百万円	Kintone (Thailand) Co., Ltd.の持株会 社	49	役員の兼任：0名
Kintone (Thailand) Co., Ltd.	タイ (バンコク)	8百万円	ソフトウェアの販売	100 (51)	タイにおいて、当社製品 の営業活動を行っております。 役員の兼任：0名

- (注) 1. 上記各社は、有価証券届出書又は有価証券報告書を提出していません。
2. 「議決権の所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。
3. 特定子会社に該当しております。
4. 債務超過会社であり、2025年12月末時点で債務超過額は355百万円であります。
5. Kintone Thai Holdings Co., Ltd.の持分は、100分の50以下ではありますが、実質的に支配しているた
め子会社としたものであります。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2025年12月31日現在

従業員数（名）	1,356(138)
---------	------------

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当連結会計年度の平均人員を（外書）で記載しております。
2. 当社グループ（当社及び連結子会社）の報告セグメントは、「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは、開示の重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

(2) 提出会社の状況

2025年12月31日現在

従業員数（人）	平均年齢（歳）	平均勤続年数（年）	平均年間給与（円）
1,080(107)	36.4	6.7	7,188,078

- (注) 1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は、当事業年度の平均人員を（外書）で記載しております。
2. 平均年間給与は、賞与、基準外賃金及び持株会奨励金を含んでおります。
3. 当社の報告セグメントは、「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは、開示の重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円滑に推移しております。

(4) 管理職に占める女性労働者の割合、男性労働者の育児休業取得率及び労働者の男女の賃金の差異

提出会社

当事業年度				
管理職に占める 女性労働者の割合(%) (注) 1	男性労働者の 育児休業取得率(%) (注) 2	労働者の男女の賃金の差異(%) (注) 1		
		全労働者	うち正規雇用 労働者	うち非正規雇用 労働者
28.7	83.3	79.5	80.0	85.2

- (注) 1. 「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（平成27年法律第64号）の規定に基づき算出したものであります。
2. 「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」（平成3年法律第76号）の規定に基づき、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律施行規則」（平成3年労働省令第25号）第71条の6第1号における育児休業等の取得割合を算出したものであります。

連結子会社

連結子会社は、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（平成27年法律第64号）及び「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律」（平成3年法律第76号）の規定による公表義務の対象ではないため、記載を省略しております。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

(1) 経営方針

当社グループは「チームワークあふれる社会を創る」という企業理念のもと、情報共有の基盤となるソフトウェアを提供することを主な事業領域としております。

(2) 経営環境及び対処すべき課題

文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

各製品のクラウドサービスの売上が堅調に増加している中、将来の収益力をより一層高めるため、引き続き、パートナーとの連携を強化しながら、エンタープライズ市場も含めた新規顧客の獲得と既存顧客の全社利用推進、AI機能の開発、グローバル展開等に取り組んでまいります。

新規顧客の獲得及び既存顧客の全社利用推進

価格改定や最小契約ユーザー数引き上げの影響等により、2025年は売上高や顧客の平均売上単価ともに増加傾向にある一方で、新規顧客の獲得社数は緩やかな推移となりました。

「kintone」は中小・中堅企業を中心に導入を拡大してまいりましたが、更なる事業成長のためには、エンタープライズ市場における新規顧客の獲得や既存顧客の全社利用推進が重要であると認識しております。また、マーケティング施策においても、従来の認知獲得・維持を目的とした広告に加え、全社利用を訴求する取り組みも進めております。

今後も、中小企業から大企業までの新規獲得に注力するとともに、既存顧客の全社利用推進の両面に取り組むことで、更なる事業成長を目指してまいります。

パートナー連携の強化

当社は、パートナー企業とともにお客様への提供価値を高めるパートナービジネスを重視しており、長年にわたりエコシステムの拡大・強化に取り組んでまいりました。パートナー社数やパートナー企業が提供するプラグイン・連携サービス、パートナー経由販売比率も年々増加しており、当社事業の重要な強みの一つとなっております。

今後も当社パートナープログラム「Cybozu Partner Network」やイベント開催等を通じて協業を推進し、より強固なエコシステムの構築と顧客価値の最大化に取り組んでまいります。

AIへの取り組み

生成AIをはじめとしたAI技術の普及により、業務におけるAI活用への関心が高まっております。当社は、AI技術の活用を通じてお客様の業務改善やデータ活用を加速させることを目的として、AI機能の開発及び各サービスへの搭載を優先度高く進めてまいりました。

引き続き、全社的にAI開発体制を強化するとともに、今後も、技術動向を素早くキャッチアップし、お客様の幅広いニーズに応えるAI機能を提供してまいります。

グローバル展開

当社は、北米・中南米、中華圏、APACを中心にグローバル展開しております。いずれの地域においても、現地の事業環境に即した販売体制の構築や認知度向上が共通の課題です。引き続き、事業成長につながる投資機会を見極めながら、機動的に対応し、中長期的な視点でグローバル展開を推進してまいります。

組織・体制の強化

当社では、「チームワークあふれる社会を創る」という企業理念の実現に向けて、我々自身が大切にしている5つのカルチャ（「理想への共感、多様な個性を重視、公明正大、自主自律、対話と議論」）を体現し、チームの生産性とメンバー（従業員）の幸福がともに高い状態の組織であることを目指しております。そのために、当社では、従業員について「100人100通りのマッチング」を重視し、多様な個性を活かす柔軟な働き方の選択肢を提示し、従業員一人ひとりのスキルや希望をマッチングさせるための基盤づくりに取り組んでおります。また、そのうえで、従業員一人ひとりの多様な個性や強みが最大限に発揮され、更なる挑戦と成長につながるよう、各種タレントマネジメントの仕組みを整備するとともに、効果的かつ効率的に意思決定及び業務執行が行える役割分担や組織構造の構築にも注力しております。中長期の事業戦略を加速させるため、これらの仕組みや基盤の強化を図るとともに、引き続き積極的な人材採用を行ってまいります。

さらに、当社では、自社製品である「kintone」や「Garoon」を活用し、インサイダー情報やプライバシー、取引先との契約に基づく守秘義務等に配慮したうえで、経営会議や取締役会の議事を含む経営に関するあらゆる情報を、公明正大に全社へ共有しております。このような情報共有を通じて、情報格差を最小限にし、役員及び従業員一人ひとりが主体的に判断し、質問責任を果たせる環境を整えています。また、経営陣が説明責任を果たし、対話と議論が日常的に行われる組織風土を醸成することにより、組織全体としてのガバナンス強化を目指してまいります。

クラウドサービス事業者として信頼される内部統制システムの整備

クラウドサービス事業を推進するに当たり、情報セキュリティを含む内部統制システムへの信頼性確保の重要性が高まっております。

そのような中で、当社グループは、海外拠点を含め、「公明正大」の考え方のもと、内部統制の仕組み化（ルール化、見える化、効率化）をより一層強化し、引き続き株主、ユーザー、パートナー企業、その他ステークホルダーの皆様からの信頼を確保すべく、内部統制システム体制の整備に注力してまいります。

2 【サステナビリティに関する考え方及び取組】

当社グループのサステナビリティに関する考え方及び取組は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループは、「チームワークあふれる社会を創る」という企業理念のもとで、事業活動を通して世界中にチームワークを普及させることが社会に対する責任を果たすことになると考えております。

また、人的資本への投資や気候変動・環境への対応が経営上の重要課題と認識しており、事業活動を通じて社会課題解決に取り組むことで、事業成長とサステナブルな社会への貢献を実現してまいります。

(1) ガバナンス

サステナビリティに関する諸課題については、プロジェクトチーム等が各事業部門と連携し、各部門の分掌に沿って、サステナビリティ関連リスクと機会、業務執行への影響について協議し、経営会議での協議・承認の後、取締役会に報告します。

取締役会はサステナビリティ全般に関するリスク及び機会の監督に対する責任を有しております。経営会議で協議・決定された内容の報告を受け、当社グループのサステナビリティのリスク及び機会への対応方針や実行計画等についての審議・監督を行っております。

(2) 戦略

当社グループでは、人的資本への投資や気候変動・環境への対応について、以下のような取組を推進しております。

人材育成に関する取組

「チームワークあふれる社会を創る」という共通の想いを持って当社に集まったメンバーは、一人ひとり多様であり、それぞれの個性、価値観を持っています。当社では、それぞれが多様であることを前提に、一人ひとり対話し、チームの生産性とメンバーの幸福が両立するマッチングを目指しています。

・入社後のオンボーディング

入社から約半年間（新卒採用の場合は1年間）をオンボーディング期間と定め、スムーズに組織に馴染み、早期に活躍できるように、新卒入社、キャリア入社それぞれで研修プログラムを提供しています。企業文化の理解や社内メンバーとのコミュニケーションの促進を図りつつ、定期的にマネジャーと期待値を調整し、振り返りを行う仕組みを整えています（オンボーディングプラン/サーベイ）。多様な働き方のメンバーがいる中でも、働き方にかかわらず、すべてのメンバーが定着、活躍できるような土台づくりを進めています。

・自律的なキャリア開発支援

「チームの生産性とメンバーの幸福の両立」のために、メンバー一人ひとりが自分自身の価値観と向き合い、自律的主体的に選択すること、またその選択に責任を持ち、貢献や成長を実感して働くことを支援する制度や仕組みづくりを進めています。自分自身のできること（経験やスキルなど）、やりたいこと（今後の希望など）を周囲に伝える「MyキャリアNEXT」、社内公募中のポジションを見える化する「ジョブボード」、期間限定で他部署の業務を体験できる「大人の体験入部」、メンバーの自主的な学びに対し、年間12万円まで支援するSelf-learning Program制度など、さまざまな施策を実行しています。

働く場所・環境整備に関する取組

当社では2007年から短時間勤務制度を、2010年からテレワークを導入しました。現在、社員の出勤率は約2割となっております。

メンバー一人ひとりが、チームの生産性を最大化する場所を主体的に考え、どこで働いても最大限の成果を発揮できるよう、オフィス環境、リモートワークの環境整備を行っております。

東京日本橋オフィスをチームワークの中心拠点であるBig Hubと据え、グループウェアも活用しながら、国内外複数の拠点や自宅、さらには多くのパートナー企業と協働できる環境づくりを行っています。現在執務フロアのリニューアルの検討を進めており、さらに効果的・効率的に活動できるオフィスづくりに取り組んでいきます。

オーナーシップの醸成（持株会）に関する取組

サイボウズの理想に共感し、その実現に向けて集まったメンバーが、オーナーシップを持って主体的に業務に取り組めることを目的に、無期雇用だけでなく有期雇用のメンバーに対しても、奨励金100%（拠出金額と同額）で運用しています。2025年12月末時点の国内従業員持株会加入率は89.1%となっています。

また、2023年からはグローバル拠点でも持株制度を開始し、2025年12月末時点で対象者の69.7%が加入しています。

気候変動・環境に関する取組

当社は、持続可能な社会の実現に向けた取り組みの一環として、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）提言に基づき気候関連情報の開示を推進しております。今年度は新たに、2030年度末までにカーボンニュートラル（Scope1 + Scope2）を達成し、2050年度末までにネットゼロ（Scope1 + Scope2 + Scope3）を目指す目標を設定しました。Scope1およびScope2の削減に向けては、再生可能エネルギー由来の電力の導入等を進めるとともに、Scope3の削減に向けては、再生可能エネルギーを利用しているデータセンターの積極的な活用、リモートワークを基本とした新しい働き方の推進、自社製品を活用した業務効率化の推進などに取り組んでいきます。

これらの活動および情報開示を通じたステークホルダーとの対話を重ねることで、気候関連リスクの低減と、マーケットの変化に応じた事業機会の獲得を図り、企業の持続的な成長につなげてまいります。

(3) リスク管理

全社的なリスク管理プロセスに基づき、サステナビリティ関連リスクへのリスク管理を実施しています。リスクは、プロジェクトチーム等が識別し、影響度を評価します。対応が必要と判断されたリスクは、プロジェクトチーム等が伴走しながら、各事業部門によってリスク対応が行われます。また、リスクへの対応状況は経営会議で協議・承認された後、取締役会へ報告されます。取締役会は、経営会議よりリスク管理の状況と対応について報告を受け、監督します。

(4) 指標及び目標

人的資本への投資

2025年の女性管理職比率は28.7%でしたが、当社では女性社員比率と近い割合が自然だと考えており、まずは30%以上の維持・向上を目指しています。

	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
全社員数	737人	870人	1,003人	1,030人	1,080人
女性社員数	341人	398人	451人	463人	486人
女性社員比率	46.3%	45.7%	45.0%	45.0%	45.0%
女性管理職数	16人	24人	25人	33人	39人
女性管理職比率	24.2%	27.3%	24.8%	30.0%	28.7%

(注) 1. 社員数は正社員（無期雇用）の人数、管理職数は副部長以上の役職者の人数として算出しております。
 2. 「男性労働者の育児休業取得率」「労働者の男女の賃金の差異」については、「第1 企業の概況 5 従業員の状況」を参照ください。

気候変動・環境への対応

当社では、気候変動・環境への対応に関する評価指標として温室効果ガス排出量（CO2）を算定しております。
 Scope1、Scope2、Scope3の排出量はそれぞれ以下の通りです。

目標

指標	対象	2030年度目標	2050年度目標
GHG排出量（Scope1 & 2）	単体	カーボンニュートラル	-
GHG排出量（Scope3）	単体	-	ネットゼロ

実績推移

項目	単位	2024年度	2025年度
GHG排出量（Scope1）	t-CO2	0	0
GHG排出量（Scope2/マーケット基準）		524	556
GHG排出量（Scope3）		29,194	32,292

2025年度実績につきましては速報値であり、正式な数値については当社Webサイトにて開示させていただきます。

3 【事業等のリスク】

以下、当社グループの事業等において、リスクの要因となる主な事項及び投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項を記載しております。当社グループは、これらのリスクの発生の可能性を認識した上で、発生の回避及び発生した場合の対応に努める方針であります。当社株式に対する投資判断は本項以外の記載内容もあわせて、慎重に検討した上で行われる必要があると考えております。

なお、以下の事項においては将来に関する事項が含まれておりますが、当該事項は当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、不確実性を内在しているため、実際の結果と異なる可能性があります。

1. 事業環境に関するリスク

市場環境の変化について

[発生可能性：中 発生する可能性のある時期：特定時期なし 影響度：大]

当社グループが製品、サービスの開発において利用している技術（Web、インターネット、クラウドコンピューティング、AI・機械学習等）は技術革新の進歩が速く、それに応じて業界標準及び利用者のニーズも急速に変化しています。このような変化に対応するため、新製品、サービスも相次いで登場しています。これらの新たな技術革新や利用者ニーズへの対応が遅れた場合、当社グループの提供する製品、サービス及びクラウドサービス環境等が陳腐化し、競合他社に対する競争力の低下を招く可能性があり、当社グループの事業に重大な影響を及ぼす可能性があります。

2. 事業の拡大・海外展開に関するリスク

事業拡大及び投資について

[発生可能性：中 発生する可能性のある時期：特定時期なし 影響度：中～大]

(a) 人材の採用・育成

今後の業容の拡大を図る中で、各事業において、専門性を有する人材の採用・育成は不可欠であると認識しております。現時点では人材の採用・育成に重大な支障が生じることは無いものと認識しておりますが、今後各事業において人材獲得競争が今以上に激化し、優秀な人材の採用がさらに困難となる場合や在職している人材の社外流出が大きく生じた場合、当社グループの事業、経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(b) 関係会社等への投資に関わるリスク

当社グループが投資を行っている関係会社等について、経営環境の変化等を要因として回収可能性が低下する可能性があり、また、投資の流動性の低さ等を要因として当社グループが望む時期や方法で事業再編が行えない可能性があります。そのため、投資の全部又は一部が損失となる、あるいは、追加資金拠出が必要となる等、当社グループの経営成績に影響を及ぼす可能性があります。

海外事業展開について

[発生可能性：中 発生する可能性のある時期：特定時期なし 影響度：中]

当社グループはグローバルな事業展開を進めておりますが、海外市場への事業進出には、各国政府の予期しない法律又は規制の変更、社会・政治及び経済情勢の変化又は治安の悪化、戦争、為替制限や為替変動、輸送・電力・通信等のインフラ障害、各種税制の不利な変更、移転価格税制による課税、保護貿易諸規制の発動、異なる商習慣による取引先の信用リスク、労働環境の変化及び人材の採用と確保の困難度、疾病の発生等、海外事業展開に共通で不可避のリスクがあります。そのほか、投下資本の回収が当初の事業計画どおり進まない可能性や、撤退等の可能性があります。

3. サービスに関するリスク

システム障害について

[発生可能性：中 発生する可能性のある時期：特定時期なし 影響度：大]

当社グループはインターネットへの接続環境を有するユーザーを対象に製品・サービス開発を行っており、営業活動・クラウドサービスその他のサービス提供においてもインターネットに依存しています。そのため、自然災害、停電、戦争、テロ、事故、その他通信インフラの破壊や故障、マルウェアや不正アクセス等により、当社グループのシステムあるいはインターネット全般のシステムが正常に稼働しない状態、いわゆるシステム障害が発生した場合に、当社グループのクラウド事業に極めて重大な影響を及ぼす可能性があります。また、当社グループ製品・サービスの提供等においてインターネット環境に依存する部分は大きく、システム障害が発生した場合に、代替的な営業・サービス提供のルートを完全に確保することは困難な場合もあり、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

知的財産の保護及び侵害

[発生可能性：中 発生する可能性のある時期：特定時期なし 影響度：低～中]

当社グループは、商標及び特許出願等、営業活動等に必要な範囲において可能な限り知的財産権等の防衛を図る所存であります。当社グループ、とりわけビジネスソフトウェア製品のコンセプト、ユーザーインターフェース及び操作性については、第三者による模倣を防止する手段は限定されていると考えられます。当該模倣が発生すると、当社の営業活動等に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、いずれの製品、サービスも単一の特許又は関連する技術に依存しているとは考えておりませんが、このような知的財産が広範囲にわたって保護できないこと、あるいは広範囲にわたり当社グループの知的財産権が侵害されることによって、当社グループの事業活動に影響を及ぼす可能性があります。

また、当社グループが海外展開を進めるにあたり、中国その他のアジア地域を中心として横行している違法コピーや模倣品の流通といった知的財産権侵害や、諸外国での当社ブランド等に関する他社の商標登録が発生した場合、当社グループの販売活動、業績及び財務活動に多大な影響を及ぼす可能性があります。

さらに、当社のプログラム製品の一部には、当社以外の第三者がその著作権等を有するオープンソースソフトウェア（以下、「OSS」という。）を組み込んでおります。当社は、製品・サービスにOSSを組み込む場合、各OSSライセンスに則って組み込んでおりますが、当該ライセンス内容が大幅に変更された場合及びかかるOSSが第三者の権利を侵害するものであることが発見された場合等は、当該プログラム製品の交換・修正・かかる第三者との対応等により、提供・販売・流通等に影響を及ぼす可能性があります。

4. コンプライアンスに関するリスク

法的規制等について

[発生可能性：中 発生する可能性のある時期：特定時期なし 影響度：中]

現在日本国内や海外においては、クラウドサービスに関するセキュリティ、個人情報保護、知的財産保護のあり方等について、法制度の整備がなされています。これらの法制度の中には、当社グループが提供するインターネットを利用する製品及びサービスにも適用される可能性のある法律等が制定されているものの、その解釈についてはまだ確立されているとはいえません。

また、ソフトウェアの知的財産保護や、インターネット上の知的財産権保護の他、ソフトウェアの使用許諾又はクラウドサービス提供における約款の取扱いに関して、引き続き議論がされるとともに、法改正も進んでいるところです。これらの法制度の整備をきっかけに、事業者の責任範囲の拡大や事業規制がなされることによって、事業が制約される可能性があります。

情報セキュリティについて

[発生可能性：低～中 発生する可能性のある時期：特定時期なし 影響度：中～大]

当社グループの営業秘密、顧客情報等の管理につきましては、十分留意していく所存ではありますが、当該情報の漏洩等が発生した場合には、当社グループの信用が損なわれることとなり、その後の事業展開、業績に影響を及ぼす可能性があります。

また、個人情報保護法への対応強化及び消費者保護のための情報提供義務への対応が世界的に強く求められていることにより、このような対応に不備が出た場合当社グループの事業の収益性に影響を及ぼす可能性があります。

特に、クラウドサービスにつきましては、データの安全性確保のための当社セキュリティレベル向上とその情報開示の他、クラウドサービス業務の委託先に対する必要かつ適切な監督や委託先の内部統制の有効性評価等に努めておりますが、クラウドサービス上のデータの破壊、紛失、漏洩などが不測の事情により発生してしまうことにより、当社グループの事業の収益性に影響を及ぼす可能性があります。

訴訟ないし法的権利行使の可能性について

[発生可能性：低～中 発生する可能性のある時期：特定時期なし 影響度：中]

当社グループの製品、技術又はサービスに対する知的財産権を含む各種権利等の侵害を理由とする販売差し止めや損害賠償の訴訟が提起される可能性があり、当社グループの販売活動や業績等に影響を及ぼす可能性があります。

この点、2025年7月18日に開示したとおり、当社製品が特許を侵害したとして、損害賠償請求訴訟が提起されていますが、当社は当該請求には理由がないものと考えており、代理人弁護士を通じて適切に対応しております。当該訴訟による当社の業績への影響等、開示すべき事項が判明した場合は、速やかに開示いたします。

また、システム障害や情報漏洩等が発生した場合、当社グループの製品及びサービスの利用者に一定の損害を与えることがあり、特に、クラウドサービスに関しては、サービス停止、クラウド上の情報漏洩、インシデントの原因追究(契約上の責任追及)とその影響範囲内での損害賠償請求訴訟等が提起される可能性があります。

当社グループが海外展開を進めていく中で、特に米国等においては訴訟が提起される可能性が比較的高く、また、訴訟コストや損害賠償額等が高額となる国において訴訟が提起された場合には、当社グループの財政状態及び業務に多大な影響を及ぼす可能性があります。

4 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要並びに経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

(1) 経営成績

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)	対前年同期比 (増減額)	対前年同期比 (増減率)
連結売上高	29,675百万円	37,430百万円	7,755百万円	26.1%
営業利益	4,892百万円	10,101百万円	5,208百万円	106.4%
経常利益	5,335百万円	10,325百万円	4,990百万円	93.5%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,555百万円	7,081百万円	3,526百万円	99.2%

2011年11月に提供を開始したクラウドサービスは、ご利用いただいている契約社数が70,000社、契約ユーザーライセンス数が360万人を突破し堅調に推移しております。

このような状況下において、当連結会計年度の連結業績につきましては、クラウドサービスの売上が引き続き積み上がり、価格体系改定等による影響もあり、連結売上高は37,430百万円（前期比26.1%増）となりました。このうち、クラウド関連事業の売上高は34,485百万円（前期比28.7%増）となっております。利益項目につきましては、クラウドサービスの運用費等の売上原価が増加、昇給や中期ターゲットである2028年12月期の連結売上高509億円の達成に向けた特別賞与の設定等により人件費が増加、積極的な広告宣伝投資を継続していることにより広告宣伝費が増加、グローバルを見据えた新規事業の創出を目的として長期的な研究開発活動を活性化していることにより研究開発費が増加した影響等から、営業利益は10,101百万円（前期比106.4%増）、経常利益は10,325百万円（前期比93.5%増）となりました。また、法人税等計上後の親会社株主に帰属する当期純利益は7,081百万円（前期比99.2%増）となりました。

なお、当社グループ（当社及び連結子会社）の報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

主な製品・サービスの状況

業務アプリ構築クラウドサービス「kintone」

主力製品である「kintone」は、2025年12月末時点の国内契約社数が39,000社と堅調に推移し、売上高は連結ベースで21,689百万円（前期比33.9%増）となりました。2024年10月に実施した価格改定の影響等により、売上高の増加に加えて、顧客の平均売上単価も増加傾向にあります。解約率も低位に抑えられている一方で、最小契約ユーザー数引き上げの影響もあり、新規顧客の獲得社数は緩やかな推移となりました。

「kintone」は中小・中堅企業を中心に導入を拡大してまいりましたが、従業員数1,000名以上の大企業向けの活動にも注力するため、当期1月にエンタープライズ事業本部を設立し、新規顧客へのソリューション提案や既存顧客へのアップセル提案等に取り組んでまいりました。

また、マーケティング施策においても、従来の認知獲得・維持を目的とした広告に加え、部門間の連携を通じて会社全体の業務効率化を描いたTVコマーシャル等、全社利用を訴求する取り組みも進めております。

さらに、「kintone」の導入は自治体においても拡大しており、2025年12月末時点の自治体導入数は約460となりました。また、導入拡大に伴い、当期9月には自治体での「kintone」の活用アイデアを共有するイベント「kintone hive government」も初開催し、多くの自治体関係者にご参加いただきました。

今後も、中小企業から大企業までの新規獲得に注力するとともに、既存顧客の全社利用推進の両面に取り組むことで、更なる事業成長を目指してまいります。

その他の製品・サービス

中小企業向けグループウェア「サイボウズ Office」では、2025年12月末時点の国内累計導入社数が83,000社、売上高については連結ベースで6,832百万円（前期比18.7%増）となり、売上高の91.8%がクラウドサービスとなりました。中堅・大規模組織向けグループウェア「Garoon」では、2025年12月末時点の国内累計導入社数が8,400社、売上高については連結ベースで6,213百万円（前期比12.2%増）、売上高の73.5%がクラウドサービスとなりました。また、メール共有サービス「メールワイズ」では2025年12月末時点の国内累計導入社数が16,000社、売上高については連結ベースで1,112百万円（前期比25.9%増）、売上高の98.3%がクラウドサービスとなりました。

いずれのサービスも売上高に占めるクラウドサービス比率が年々増加しております。引き続き、クラウドサービスへの移行を推進し、安定的な収益基盤の強化を図ってまいります。

パートナービジネス（エコシステム）

当社は、パートナー企業とともにお客様への提供価値を高めるパートナービジネスを重視しており、長年にわたりエコシステムの拡大・強化に取り組んでまいりました。2025年12月末時点におけるパートナー社数は約560社、パートナー企業が提供するプラグイン・連携サービスは500サービス以上と年々増加しております。

現在、クラウド関連事業の国内売上高の66.0%にあたる21,956百万円がパートナー経由の売上となっており、パートナー販売比率も年々増加しております。また、販売チャネルの拡大に向けて、2025年12月末時点で全国20行以上の地方銀行と協業し、実働約8年間で地方銀行のコンサルティングにより約900社に当社サービスを導入いただいております。

当期は、Biztex株式会社よりOEM提供を受け、オプション機能「連携コネクタ」の版を提供開始する等、「kintone」の自ら作れる範囲を広げ、ユーザーの利用用途の拡大に向けた取り組みを実施しました。

今後も当社パートナープログラム「Cybozu Partner Network」やイベント開催等を通じて協業を推進し、より強固なエコシステムの構築と顧客価値の最大化に取り組んでまいります。

AIに関する取り組み

生成AIをはじめとしたAI技術の普及により、業務におけるAI活用への関心が高まっております。当社は、AI技術の活用を通じてお客様の業務改善やデータ活用を加速させることを目的として、AI機能の開発及び各サービスへの搭載を優先度高く進めてまいりました。

「kintone」では、「kintone AIラボ」として検索AIやアプリ作成AI等、合計5つの機能を当期4月より順次提供してまいりました。これらは主に市民開発や蓄積データの活用を支援する機能です。また、「Garoon」及び「サイボウズ Office」においても、要約AIや校正AI等の機能を提供し、各サービスにおけるAI活用を推進しております。

引き続き、全社的にAI開発体制を強化するとともに、今後も、技術動向を素早くキャッチアップし、お客様の幅広いニーズに応えるAI機能を提供してまいります。

信頼性強化への取り組み

当社は、クラウド関連事業を開始した2011年より、自社でクラウド基盤の開発と運用を継続しております。当期においても、自社開発の新クラウド基盤「NECO」への移行を進める等、信頼性強化に重点を置き、セキュリティ向上に対する継続的な投資を行っております。

当社のクラウドサービスは、「政府情報システムのためのセキュリティ評価制度（ISMAP）」において、政府が求めるセキュリティ要求を満たすサービスとして認定されております。また、海外向けに提供する「kintone」については、「SOC2 Type1保証報告書」及び「SOC2 Type2保証報告書」を受領していることに加え、当期は米国の医療情報保護法「HIPAA」にも対応いたしました。これにより、機密性の高い情報を取り扱う企業・団体における導入機会の損失を防ぎ、顧客基盤の拡大に寄与すると考えております。

今後も国際基準を満たす内部統制及びセキュリティ脅威への対応に継続して取り組み、安心・安全なクラウドサービスの提供を推進してまいります。

グローバル展開の状況

当社は、北米・中南米、中華圏、APACを中心にグローバル展開しております。2025年12月末時点における導入社数は、米国で910社、中華圏で1,430社、APACで760社となりました。

北米・中南米では、MSP (Managed Service Provider) を中心とした販売体制の整備を図るとともに、直販での販売活動の強化にも取り組んでまいりました。中華圏では、現地の事業環境等を踏まえながら、日系企業を中心とした提案活動に注力しております。APACでは、タイの売上・導入実績は堅調に推移しております。今後はマレーシアでも積極的なプロモーション活動を実施してまいります。

当期9月には「kintone Days Global 2025」をバンコク、深圳、上海、台北の4都市で開催し、各地域における認知拡大及び顧客・パートナーとの接点強化を図りました。

今後も認知の拡大や販売体制の強化に取り組み、事業成長につながる投資機会を見極め、中長期的な視点でグローバル展開を推進してまいります。

社会・地域への取り組み

当社では、「チームワークあふれる社会を創る」という企業理念のもと、社会課題の解決や地域のDX推進に向けた取り組みを実施しております。

社会課題への取り組みとしては、主に非営利団体向け支援や地方創生支援、教育現場の働き方改革支援、災害時のICT活用支援等に取り組んでおります。当期は「地域クラウド交流会」を全国で27回開催したほか、大雨で被災した3県にて、「kintone」を活用した災害支援を実施いたしました。

地域DXへの取り組みとしては、当期6月に株式会社エヒメスポーツエンターテイメントとの資本業務提携契約の締結、及び同社の第三者割当増資引受により、同社を子会社化いたしました。同社が運営するプロバスケットボールチーム「愛媛オレンジバイキングス」の更なる成長を支援するとともに、「kintone」の導入・活用を通じて地域のDX推進を後押しし、当社創業の地である愛媛のまちづくりへの貢献を目指してまいります。

今後も当社のチームワーク向上のノウハウを活かし、社会課題の解決や地域のDX推進に向けた活動を継続してまいります。

生産、受注及び販売実績

a. 生産実績

当社グループ（当社及び連結子会社）の報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度の実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(百万円)	前年同期比(%)
ソフトウェア事業	21	169.3

(注) 金額は、製造原価とソフトウェアのうち自社開発分（資産計上分）の合計により算出しております。

b. 受注状況

当社グループ（当社及び連結子会社）は受注開発を行っておりますが、受注高及び受注残高の金額に重要性はありません。

c. 販売実績

当社グループ（当社及び連結子会社）の報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、ソフトウェア事業に含めて記載しております。

当連結会計年度の実績は次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(百万円)	前年同期比(%)
ソフトウェア事業	37,430	126.1

(注) 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は、総販売実績の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

(2) 財政状態

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)	対前年同期比 (増減額)
資産合計	21,087百万円	30,140百万円	9,052百万円
負債合計	9,454百万円	12,324百万円	2,870百万円
純資産合計	11,633百万円	17,815百万円	6,181百万円

資産合計につきましては、現金及び預金や売掛金が増加、クラウドサービス用のサーバー増設等により工具、器具及び備品が増加、上場株式の株価上昇により投資有価証券が増加した影響等から、前連結会計年度末に比べ9,052百万円増加し、30,140百万円となりました。

負債合計につきましては、未払法人税等や契約負債が増加した影響等から、前連結会計年度末に比べ2,870百万円増加し、12,324百万円となりました。

純資産合計につきましては、剰余金配当1,386百万円を実施した一方、親会社株主に帰属する当期純利益7,081百万円の計上により利益剰余金が増加した影響等から、前連結会計年度末に比べ6,181百万円増加し、17,815百万円となり、自己資本比率は59.1%となりました。

なお、当社グループ(当社及び連結子会社)の報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(3) キャッシュ・フロー

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末より6,104百万円増加し、11,694百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)	対前年同期比 (増減額)
営業活動による キャッシュ・フロー	5,601百万円	10,676百万円	5,074百万円
投資活動による キャッシュ・フロー	3,089百万円	3,102百万円	13百万円
財務活動による キャッシュ・フロー	3,599百万円	1,388百万円	2,210百万円

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における営業活動による資金収支は、10,676百万円の収入となりました。これは法人税等の支払いがあった一方、税金等調整前当期純利益10,325百万円や減価償却費の計上等によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動による資金収支は、3,102百万円の支出となりました。これはクラウドサービス投資の一環としてサーバー等を取得したことに伴う固定資産取得による支出があったこと等によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動による資金収支は、1,388百万円の支出となりました。これは配当金支払いによる支出があったこと等によるものです。

(資本の財源及び資金の流動性)

当社グループの運転資金及び設備投資等資金は、主として営業活動キャッシュ・フローである自己資金により充当し、必要に応じて金融機関からの借入を実施することを基本方針としております。今後の資金需要のうち、主なものは、運転資金の他、国内外でのクラウドサービス認知度を向上させるための広告宣伝及び国内のクラウドサービス用サーバー機材増設等の設備投資であります。これらの資金についても、基本方針に基づき、自己資金により充当しつつ、必要に応じて金融機関からの借入を実施する等、負債と資本のバランスに配慮しつつ、必要な資金を調達してまいります。

(4) 重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しております。この連結財務諸表を作成するにあたって、資産、負債、収益及び費用の報告額に影響を及ぼす見積り及び仮定を用いておりますが、これらの見積り及び仮定に基づく数値は実際の結果と異なる可能性があります。

連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な会計上の見積り)」に記載しております。

5 【重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループ(当社及び連結子会社)の報告セグメントは、「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは、開示の重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

インターネット関連技術は技術革新の進歩が速く、また、それに応じて業界標準及び利用者ニーズが急速に変化するため、新技術・新製品も相次いで登場しております。そこで、当社グループの研究開発活動は、顧客満足度の向上に資するため、これらの新技術等への対応を、開発部門を中心に随時進行しております。

当連結会計年度における研究開発費の総額は、1,491百万円となっております。

新規事業の創出を目的として2022年10月1日付で「New Business Division」を新設しており、新本部として、国内外のメンバー増員など組織基盤を強化するとともに、グローバルを見据えた長期的な研究開発活動を活性化しております。

第3【設備の状況】

1【設備投資等の概要】

当社グループ（当社及び連結子会社）の報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

当連結会計年度における当社及び当社連結子会社における設備投資額は、2,840百万円になりました。その主なものは、クラウドサービス用のサーバー増設等による「工具、器具及び備品」の投資額が2,819百万円、「建物」の投資額が17百万円となっております。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
		建物	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア	その他	合計	
東京オフィス (東京都中央区)	販売・開発設備	239	2,593	582	-	3,415	776(56)
大阪オフィス (大阪府大阪市北区)	販売・開発設備	46	1,578	0	-	1,626	121(2)
松山オフィス (愛媛県松山市)	販売・開発設備	95	12	-	-	107	66(37)
福岡オフィス (福岡県福岡市博多区)	販売・開発設備	22	4	-	-	27	37(1)
名古屋オフィス (愛知県名古屋市中区)	販売設備	47	12	-	-	60	29(1)
仙台オフィス (宮城県仙台市青葉区)	販売設備	10	2	-	-	13	8(1)
横浜オフィス (神奈川県横浜市西区)	販売設備	-	-	-	-	-	2(0)
広島オフィス (広島県広島市南区)	販売・開発設備	21	6	-	-	27	17(1)
札幌営業所 (北海道札幌市中央区)	販売設備	16	6	-	-	23	8(0)
那覇コンタクトセンター (沖縄県那覇市)	販売設備	8	5	-	-	14	1(7)
台湾オフィス (台北市)	販売設備	-	0	-	-	0	15(0)
川崎BPOオフィス (神奈川県川崎市高津区)	販売設備	-	0	-	-	0	0(0)
札幌カスタマーセンター (北海道札幌市北区)	販売設備	-	0	-	-	0	0(0)
沖縄カスタマーセンター (沖縄県那覇市)	販売設備	-	-	-	-	-	0(1)
横浜カスタマーセンター (神奈川県横浜市西区)	販売設備	-	0	-	-	0	0(0)

(注) 1. 各事業所の建物はすべて賃借中のものであり、帳簿価額は建物附属設備について記載しております。

建物の年間賃借料は、979百万円であります。

2. 従業員数（外書）は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3. 現在休止中の主要な設備はありません。

(2) 国内子会社

会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア	その他	合計	
サイボウズ・ ラボ株式会社	本社 (東京都中央区)	開発設備	-	0	0	-	1	9(0)
サイボウズ・ コネクトシー 株式会社	本社 (東京都中央区)	-	-	-	-	-	-	20(0)
株式会社エヒメ スポーツエンター テイメント	本社 (愛媛県松山市)	運営設備	15	9	0	7	32	12(30)

- (注) 1. 株式会社エヒメスポーツエンターテイメントの建物は、借家であり、賃借料として0百万円計上しております。
2. 従業員数(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
3. 現在休止中の主要な設備はありません

(3) 在外子会社

会社名	事業所名 (所在地)	設備の 内容	帳簿価額(百万円)					従業員数 (人)
			建物	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア	その他	合計	
才望子情報技術 (上海)有限公司	中国 (上海)	販売設備	10	14	-	-	24	64(0)
Cybozu Vietnam Co., Ltd.	ベトナム (ホーチミン)	開発設備	-	25	-	-	25	112(0)
Kintone Corporation	アメリカ (カリフォルニア)	販売・ 開発設備	-	-	-	-	-	36(1)
KINTONE AUSTRALIA PTY., LTD.	オーストラリア (シドニー)	販売設備	-	0	-	-	0	3(0)
KINTONE SOUTHEAST ASIA SDN. BHD.	マレーシア (クアラルンプール)	販売設備	-	0	-	2	3	11(0)
Kintone Thai Holdings Co., Ltd.	タイ (バンコク)	-	-	-	-	-	-	0(0)
Kintone (Thailand) Co., Ltd.	タイ (バンコク)	販売設備	-	1	-	-	1	9(0)

- (注) 1. 才望子情報技術(上海)有限公司の建物は、借家であり、賃借料として38百万円計上しております。
2. Cybozu Vietnam Co.,Ltd.の建物は、借家であり、賃借料として75百万円計上しております。
3. Kintone Corporationの建物は、借家であり、賃借料として8百万円計上しております。
4. KINTONE AUSTRALIA PTY., LTD.の建物は、借家であり、賃借料として0百万円計上しております。
5. KINTONE SOUTHEAST ASIA SDN. BHDの建物は、借家であり、賃借料として4百万円計上しております。
6. Kintone (Thailand) Co., Ltd.の建物は、借家であり、賃借料として5百万円計上しております。
7. 従業員数(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
8. 現在休止中の主要な設備はありません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	193,428,000
計	193,428,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2025年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2026年3月27日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	52,757,800	52,757,800	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	52,757,800	52,757,800		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2014年1月1日 (注)	52,230,222	52,757,800		613		976

(注) 2013年12月9日開催の取締役会決議により、2014年1月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。これにより株式数は52,230,222株増加しております。

(5) 【所有者別状況】

2025年12月31日現在

区分	株式の状況(1単元の株式数100株)								単元未満株式の状況(株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数(人)	0	14	39	123	185	41	16,162	16,564	
所有株式数(単元)	0	74,691	16,571	102,466	51,996	197	281,147	527,068	51,000
所有株式数の割合(%)	0.00	14.17	3.14	19.44	9.86	0.03	53.34	100.00	

(注) 自己株式6,513,703株は、「個人その他」に65,137単元、及び「単元未満株式の状況」に3株を含めて記載しております。

(6) 【大株主の状況】

2025年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
畑 慎也	東京都文京区	8,159,600	17.64
C b z サポーターズ株式会社	東京都中央区日本橋2丁目7-1 東京日本橋タワー27階	8,106,300	17.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区赤坂1丁目8番1号 赤坂インターシティAIR	3,231,000	6.98
サイボウズ従業員持株会	東京都中央区日本橋2丁目7-1 東京日本橋タワー27階	2,356,868	5.09
山田 理	東京都文京区	1,913,100	4.13
株式会社リコー	東京都大田区中馬込1丁目3番6号	1,740,100	3.76
中野 博久	京都府京都市左京区	1,030,000	2.22
西端 慶久(青野 慶久)	東京都文京区	869,727	1.88
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8-12	831,800	1.79
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	461,690	0.99
計		28,700,185	62.06

- (注) 1. 日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)及び株式会社日本カストディ銀行(信託口)は、全て信託業務に係る株式であります。
2. Cbzサポーターズ株式会社は、当社代表取締役社長である西端慶久(青野慶久)氏がその株式を保有する資産管理会社であります。
3. 畑慎也氏の持株数には、2022年12月15日付けで締結した管理信託契約に伴い株式会社SMB C信託銀行が保有している株式数(2025年12月31日現在3,000,000株)を含めて表記しております。
4. 西端慶久(青野慶久)氏の持株数には、株式累積投資を利用した実質保有分を含めて表記しております。
5. 上記のほか、自己株式が6,513,703株あります。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2025年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 6,513,700		
完全議決権株式(その他)	普通株式 46,193,100	461,931	
単元未満株式	普通株式 51,000		
発行済株式総数	52,757,800		
総株主の議決権		461,931	

(注) 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式3株を含んでおります。

【自己株式等】

2025年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
サイボウズ株式会社	東京都中央区日本橋 2丁目7番1号	6,513,700		6,513,700	12.34
計		6,513,700		6,513,700	12.34

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号及び会社法第155条第13号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

役務提供期間中の退職により譲渡制限付株式報酬として処分した自己株式を無償取得したことによるもの及び単元未満株式の買取りによるものであります。

区分	株式数(株)	価額の総額(百万円)
当事業年度における取得自己株式	1,031	
当期間における取得自己株式	12	0

(注) 当期間における取得自己株式には、2026年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の 総額(百万円)	株式数(株)	処分価額の 総額(百万円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式				
消却の処分を行った取得自己株式				
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移 転を行った取得自己株式				
その他 (譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分)	37,511	107		
保有自己株式数	6,513,703		6,513,715	

(注) 当期間における保有自己株式数には、2026年3月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は永続的な成長を目的としております。そのため主力であるクラウド関連事業の拡充に向けた機動的投資の重要性を高く認識するとともに、業績動向等を勘案したうえで、株主の皆様の長期保有につながるような利益還元策の実施を基本方針としております。

この基本方針のもと、当期の配当につきましては、当期業績の進捗や次期業績の見通しを前提に、事業の継続的成長に必要な投資の可能性、キャッシュフロー等を勘案した上で、前期の30円から10円増配し、2026年3月28日開催予定の定時株主総会で、1株当たり40円00銭の配当を決議する予定であります。

次期以降の配当につきましては、クラウド関連事業のさらなる成長を目指して積極投資する資金を確保しつつ、継続的に剰余金配当を実施してまいります。

当社は、期末配当として年一回の剰余金の配当を行うことを基本方針としており、期末配当の決定機関は株主総会であります。

また、当社は、「取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として、中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度の剰余金の配当は以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(百万円)	1株当たりの配当額(円)
2026年3月28日 定時株主総会決議予定	1,849	40.00

4 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、「チームワークあふれる社会を創る」というパーパス（存在意義）の実現に向けた挑戦が、当社の持続的な成長を支え、中長期的な企業価値の向上につながると考えています。こうした考えのもと、コーポレート・ガバナンスを、中長期的な企業価値創造を支える経営の土台と位置づけ、パーパスの実現に向けた効果的かつ効率的な意思決定と執行の実効性を高める仕組みとして整えています。

ここでいう「効果的・効率的」とは、当社にとって次の二つを両立することです。

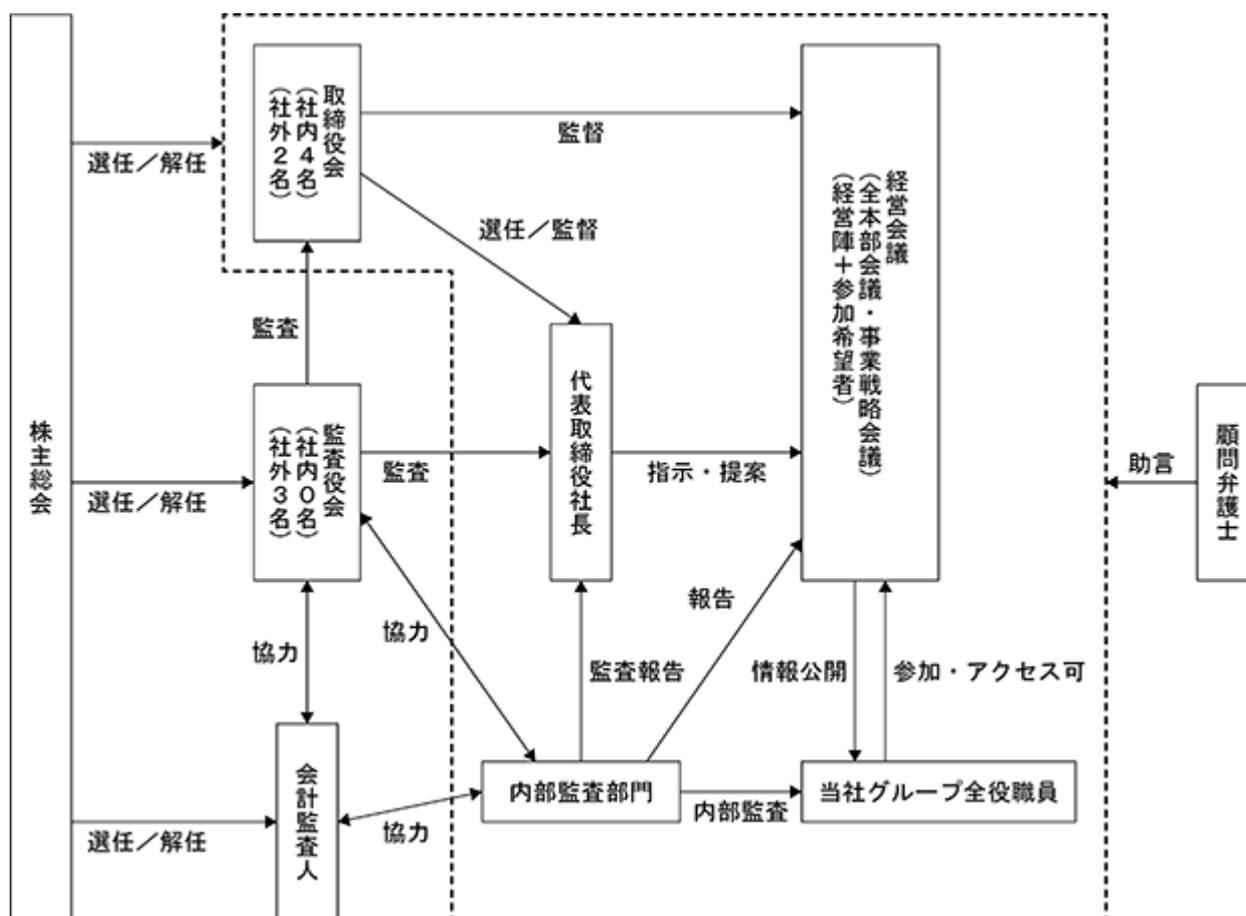
- ・リスクを適切に管理し、不祥事を未然に防ぎながら、健全で信頼される経営を継続すること
- ・パーパスの実現に向けて果敢に挑戦し、収益性や資本効率を高め、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上につなげること

コーポレート・ガバナンスにおいても、当社が大切にしている5つの文化（「理想への共感」「多様な個性を重視」「公明正大」「自主自律」「対話と議論」）は重要な役割を果たしています。これらを基本原則として体現することで、意思決定や執行の質を高め、パーパスの実現に向けた効果的かつ効率的な経営につなげていきます。

具体的な取り組みのひとつとして、自社製品である「kintone」や「Garoon」を活用し、インサイダー情報やプライバシー、取引先との契約に基づく守秘義務等に配慮したうえで、経営会議や取締役会の議事を含む経営に関するあらゆる情報を、公明正大に全社へ共有しています。このような情報共有を通じて、情報格差を最小限に抑え、役員及び従業員一人ひとりが経営方針や事業戦略を理解したうえで、自律的に行動できる基盤を築いています。さらに、こうした情報共有の仕組みは、チーム内におけるオープンな対話や協働を促進し、部署や役割の垣根を越えた議論や意思決定が日常的に行われることにつながっています。

これらに加え、社外監査役による取締役の職務執行状況の監督や、内部監査部門による内部牽制にも取り組んでおります。引き続き、組織全体でコーポレート・ガバナンスを強化してまいります。

当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要は次のとおりです。（提出日現在）



企業統治の体制及びそれを採用する理由

(企業統治の体制及びそれを採用する理由)

当社は監査役会設置会社を選択し、執行部門、取締役会、監査役会の役割を明確に分離しています。それぞれが自律的に機能することで、迅速な意思決定と実効性の高い監督・監査を実現しています。これにより、パーパスの実現に向けた挑戦と健全性を両立する経営体制を構築しています。

(a) 取締役会（提出日現在）

取締役会は、取締役6名によって構成され、監査役（常勤監査役の田畑正吾氏、社外監査役の小川義龍氏、社外監査役の植松則行氏）出席のもと月1回定時取締役会を開催し、必要に応じて臨時取締役会を開催しております。なお、当社は、2026年3月28日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「取締役6名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されますと、取締役6名（うち社外取締役2名）となる予定です。

取締役会は、法令及び定款に定められた重要な業務執行の決議を行うとともに、取締役の職務執行を監督しております。加えて、経営陣等による意思決定および業務執行のプロセス全体を俯瞰し、当社の文化が適切に体现されているか、その結果として意思決定および業務執行に合理性が確保されているかという観点からも監督を行っております。

取締役会が実効的に機能し役割を十分に果たすためには、多様な視点が必要不可欠であることから、取締役の選出にあたっては、従業員、社外の専門家など、属性やバックグラウンドの多様性を重視した人選を行っています。社内取締役については、自薦・他薦を問わない社内公募制度を採用しています。立候補者の中から、取締役に求められる役割を十分に果たし得る従業員を、自社製品である「kintone」のアプリを通じて他の従業員から寄せられたフィードバックも踏まえて選定し、取締役会が候補者として指名しています。なお、経営環境の変化にフレキシブルに対応できる体制とするべく取締役の任期を1年としております。

< 取締役会の活動状況 >

当事業年度において当社は取締役会を17回開催しており、各取締役の出席状況は以下のとおりです。

氏名	開催回数	出席回数
西端 慶久 (青野 慶久)	17回	13回
磯田 満梨 (吉田 満梨)	14回	14回
岡田 陸	17回	17回
熊平 美香	17回	16回
田岡 朋弥	17回	17回
永岡 恵美子	14回	14回
森岡 貴和	3回	3回
渡邊 裕子	3回	3回

- (注) 1. 森岡貴和氏、渡邊裕子氏は、2025年3月30日の任期満了による退任までの出席状況を記載していません。
2. 磯田満梨（吉田満梨）氏、永岡恵美子氏は、2025年3月30日の就任以降の出席状況を記載していません。

当事業年度における取締役会の具体的な検討内容は、以下のとおりです。

- ・法定審議事項
- ・組織改編、業務分掌及び重要な人事異動に関する事項
- ・予算、決算、業績、投融資に関する事項
- ・コンプライアンス及びガバナンスに関する事項
- ・当社及び当社子会社の業務報告 等

(b) 経営会議（全本部会議 / 事業戦略会議）

経営陣（代表取締役社長の青野慶久氏、APIエコシステム本部担当執行役員の札辻秀樹氏、システムコンサルティング本部担当執行役員の萩澤佑樹氏、人事部・チームワークあふれるまちづくり室担当執行役員の中根弓佳氏、カスタマー本部担当執行役員の河合真知子氏、事業戦略本部・マーケティング本部・グローバル事業本部担当執行役員の栗山圭太氏、経営支援本部担当執行役員の林忠正氏、開発本部担当執行役員の佐藤鉄平氏、クラウド基盤本部担当執行役員の齋藤真之介氏、情報システム本部担当執行役員の鈴木秀一氏、ソーシャルデザインラボ室担当執行役員の中村龍太氏、エンタープライズ事業本部・営業本部担当執行役員の玉田一己氏）及び従業員で構成される「全本部会議」を週1回開催し、グループにおける中長期的な経営計画、基本方針、人事戦略、財務戦略等の意思決定の審議を実施し、業務執行状況のモニタリングを行っております。

また、同じく経営陣（同上）及び従業員で構成される「事業戦略会議」を週1回開催し、変化に富んだIT業界に合った迅速な事業戦略の意思決定を行っております。

経営会議は、経営陣による意思決定に先立ち、従業員から幅広く助言を募るための場です。上程された議題については、従業員全員が助言システムを通じて意見や質問を提示することができ、質問責任を果たしながら意思決定プロセスに関与します。意思決定者は、寄せられた助言に真摯に向き合い、説明責任を果たしたうえで最終的な意思決定を行います。このプロセスを通じて、多様な視点を取り入れ、意思決定の質を高めています。

なお、法令及び定款に基づく重要な業務執行の決定は、取締役会において行っておりますが、取締役会付議事項については経営会議での審議を必ず経ることとしております。これにより、従業員が適時に内容を閲覧し、質問責任を果たすことができる体制となっております。

(c) 監査役会

当社の監査役は3名（常勤監査役の田畑正吾氏、社外監査役の小川義龍氏、社外監査役の植松則行氏）です。なお、当社は、2026年3月28日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「監査役1名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されれば、監査役3名（うち社外監査役3名）となる予定です。

当社は監査役制度のもとで経営の監督を行っております。経営の透明性の確保・監督の強化のため、監査役は3名全員社外監査役を選任しております。常勤社外監査役に加えて、弁護士又は公認会計士である非常勤社外監査役を合わせた3名全員が原則全ての開催取締役会に出席し、適宜意見や質問を述べるほか、内部監査部門から当社グループの業務執行に関し、適法性の観点から毎月監査報告を受ける等、当社の業務監査を積極的に実施し、業務執行の適法性等に関するチェックを行っております。また、月1回定時監査役会を開催するほか、必要に応じて、臨時監査役会を開催しております。各監査役は、取締役会等の重要な会議の参加のほか、各取締役等から職務の執行状況の聴取及び意思決定の調査を行っております。計算書類及び附属明細書に関しては、会計監査人からの監査報告を受け、確認を行っております。

企業統治に関するその他の事項

(内部統制システムの整備の状況)

(a) コンプライアンスの遵守を確保するための体制

当社は、企業理念を実現するため社内環境を整備し、意識の浸透及び文化の醸成に努めております。また、コンプライアンスの遵守を確保するための体制強化及びコーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。さらに、反社会的勢力とは取引関係も含めて一切の関係を持たず、反社会的勢力からの不当要求に対しては、組織全体として毅然とした対応をとるものとしております。

(b) 業務の効率性を確保する体制

当社は、職務分掌、権限及び責任を組織職務権限規程等において明確にしております。また、取締役会及び全本部会議等を通じ、積極的に課題等の共有及び報告を行っております。さらに、取締役及び監査役は、財務報告及びその内部統制に関し、適切に監督監視する責任を理解し、実行しております。

(c) 情報セキュリティ

情報セキュリティに関しては、情報セキュリティを確保するためのルールを整備・運用しており、また個人情報保護法等の法令を遵守し、情報資産を適切に取り扱うことに努めております。

具体的には、情報セキュリティ規則の制定、情報セキュリティマネジメントシステム（ISMS）の構築に加え、当社グループのセキュリティ施策を強力に推進するセキュリティ室を中心に、社内セキュリティを専門的に取り扱う全社横断の会議体であるサイボウズセキュリティミーティング（CSM）と連携して、技術面・運用面・統制面からセキュリティを維持・強化する体制を構築・運用しております。その他、安全なシステムとサービス運用をするため、技術にフォーカスしたセキュリティインシデントに対応する専門チーム CSIRT（Cy SIRT）を中心に、社外の専門家から脆弱性情報を集め、製品・サービスの品質を向上させる体制を構築・運用しております。今後も情報セキュリティ対策の継続的な改善に努めてまいります。

(d) 情報開示

当社は、金融商品取引法等に基づく法定開示制度や、東京証券取引所が定める適時開示規則にのっとり、適時適切な情報開示に努めています。また法定開示や適時開示の対象とならない情報であっても、投資判断に影響を与えらると思われる重要な情報につきましては、決算説明会の開催及びホームページの活用等を通して、すべてのステークホルダーが平等に入手できるように、公平・正確かつ迅速に開示していく方針です。

(リスク管理の体制の整備状況)

事業上のリスクとして、市場環境の変化、事業拡大、投資拡大等があげられます。

日常の業務執行過程で生じるリスクに関しては、法務統制部門が関連部署の協力を得てリスク管理を行っております。

当社グループの事業活動に重大な影響を及ぼす恐れのあるリスクに関しては、事前に関連部署でリスクを分析した上で対応策等を検討し、全本部会議及び事業戦略会議等で審議してから意思決定することによりリスク管理を行っております。また、必要に応じて顧問弁護士等の専門家から適時アドバイスを受け、リスクの極小化を図っております。

(当社グループにおける業務の適正性確保のための体制)

当社は、子会社の業務の適正を確保するための体制整備として、当社の役職員1名以上を子会社へ派遣し、常に経営状況を把握しております。子会社では、当社役職員のみが取締役となっている場合を除き、「取締役会」及び「監査役」を必ず設置した上で、子会社役職員と協力して、定期的に子会社内部監査（グループ監査）を実施し、重要な事項については当社の取締役会に報告しております。また、当社グループにおける不正を防止するために内部通報制度を導入しており、当社グループ役職員からの通報を積極的に受け付け、通報したことにより不利益な扱いがされないよう配慮しつつ、当社内部通報委員会がこれに対応しております。

役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者がその職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害を当該保険契約により填補することとしております。

当該役員等賠償責任保険契約の被保険者の範囲は、当社及び子会社の取締役、監査役及び執行役員その他の管理監督者です。

<役員等賠償責任保険契約の内容の概要>

(1) 被保険者の実質的な保険料負担割合

保険料は株主代表訴訟担保特約部分も含め会社負担としており、被保険者の実質的な保険料負担はない。

(2) 填補の対象となる保険事故の概要

上記特約部分も合わせて、被保険者である役員等がその職務の執行に関し責任を負うこと又は当該責任の追及に係る請求を受けることによって生ずることのある損害について填補する。

ただし、役員等が、違法な利益・便宜の供与を受けた場合、法令違反の行為であることを認識して行った場合等一定の免責事由がある。

取締役の定数（提出日現在）

当社は取締役の定数を定款で定めておりません。

取締役選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款で定めております。また、取締役の選任決議は累積投票によらない旨も定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役会にて決議することができる株主総会決議事項

(a) 中間配当

当社は、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年6月30日を基準日として、中間配当を行うことができる旨を定款に定めております。これは、株主への機動的な利益還元を行うことを目的とするものであります。

(b) 自己株式の取得

当社は、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議をもって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。これは、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を実施することを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

2026年3月27日（有価証券報告書提出日）現在の役員の状況は以下のとおりです。

男性 6名 女性 3名（役員のうち女性の比率 33.4%）

役職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数(株)
代表取締役 社長	西 端 慶 久 (青野 慶久)	1971年6月26日	1994年4月 1997年8月 2005年4月 2015年4月 2025年6月	松下電工株式会社入社 当社設立 取締役副社長 当社代表取締役社長(現任) サイボウズ・ラボ株式会社代表取締役社長 株式会社エヒメスポーツエンターテイメント 取締役会長(現任) (重要な兼職の状況) 株式会社エヒメスポーツエンターテイメント取締役会長	(注3)	8,976,027 (注7) (注8)
取締役	岡 田 陸	1997年5月28日	2020年4月 2021年3月 2024年3月	当社入社(現人事本部所属) 当社取締役 当社取締役(現任)	(注3)	1,965 (注8)
取締役	田 岡 朋 弥	1997年4月9日	2022年4月 2024年3月	当社入社(現経営支援本部及びチームワークあ ふれるまちづくり室所属) 当社取締役(現任)	(注3)	911 (注8)
取締役	永 岡 恵 美 子	1971年11月4日	1992年4月 2007年9月 2008年7月 2010年2月 2012年10月 2013年3月 2014年5月 2025年3月	株式会社日本興業銀行入行 ザ・レジェンド・ホテルズ&トラスト株式会社 入社 株式会社東京スター銀行入行 株式会社企業再生支援機構入社 株式会社エアウィーブ入社 株式会社PLUS-Y入社 当社入社(現マーケティング本部所属) 当社取締役(現任)	(注3)	5,192 (注8)
取締役	磯 田 満 梨 (吉田 満梨)	1980年11月5日	2009年4月 2010年4月 2021年4月 2023年4月 2024年5月 2025年3月 2026年1月	首都大学東京都市教養学部経営学系助教 立命館大学経営学部准教授 神戸大学大学院経営学研究科准教授 京都大学経営管理大学院「哲学的企業家研究寄 附講座」客員准教授(現任) 株式会社やまと社外取締役(現任) 当社社外取締役(現任) 神戸大学大学院経営学研究科教授(現任) (重要な兼職の状況) 神戸大学大学院経営学研究科教授 京都大学経営管理大学院「哲学的企業家研究寄附講座」客員准 教授 株式会社やまと社外取締役	(注3)	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役	熊平美香	1960年9月22日	1985年4月 株式会社熊平製作所入社 1989年5月 株式会社熊平製作所取締役 1990年6月 株式会社東京クマヒラ常務取締役 1993年4月 The Bear Group Inc.代表取締役 1996年1月 株式会社藤田商店入社 1997年4月 株式会社エイテッククマヒラ 代表取締役(現任) 1998年4月 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科 非常勤講師 2004年4月 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 取締役 2011年4月 一般財団法人クマヒラセキュリティ財団 代表理事(現任) 2014年4月 昭和女子大学ダイバーシティ推進機構キャリア カレッジ学院長(現任) 2015年9月 一般社団法人21世紀学び研究所 代表理事(現任) 2019年6月 日鍛バルブ株式会社(現 株式会社NITTAN) 社外取締役(現任) 2020年2月 キュービー株式会社社外監査役(現任) 2022年11月 学校法人日本大学顧問(現任) 2023年12月 株式会社ベター・プレイス社外取締役 2024年3月 当社社外取締役(現任) 2024年4月 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科特 任教授(現任) 2025年2月 株式会社ベター・プレイス顧問(現任) 2025年6月 大日本印刷株式会社社外取締役(現任) (重要な兼職の状況) 株式会社エイテッククマヒラ代表取締役 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科特任教授 一般財団法人クマヒラセキュリティ財団代表理事 昭和女子大学ダイバーシティ推進機構キャリアカレッジ学院長 一般社団法人21世紀学び研究所代表理事 株式会社NITTAN社外取締役 キュービー株式会社社外監査役 学校法人日本大学顧問 株式会社ベター・プレイス顧問 大日本印刷株式会社社外取締役	(注3)	
監査役 (常勤)	田畑正吾	1971年7月10日	1995年4月 株式会社日本興業銀行入行 2000年1月 株式会社インフォキャスト設立 同社取締役 2000年9月 インデックスデジタル株式会社(現 シナジー マーケティング株式会社)設立 同社取締役 2005年6月 株式会社四次元グループ(現 シナジーマーケ ティング株式会社)設立 同社取締役 2006年7月 シナジーマーケティング株式会社取締役副社長 2013年1月 米国法人 SMIA Corporation 設立 CEO 2015年3月 当社社外監査役(現任) 2022年7月 Micoworks株式会社社外監査役(現任) (重要な兼職の状況) Micoworks株式会社社外監査役	(注4)	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
監査役	小川 義 龍	1964年 4月15日	1991年11月 司法試験合格 1992年 4月 最高裁判所司法研修所入所 1994年 4月 佐瀬米川法律事務所入所 1999年 8月 小川義龍法律事務所(現 小川綜合法律事務所) 開設同所代表弁護士(現任) 2000年10月 当社顧問弁護士 2002年 4月 当社社外監査役(現任) 2019年 3月 トヨクモ株式会社社外監査役(現任) (重要な兼職の状況) 弁護士 小川綜合法律事務所代表 トヨクモ株式会社社外監査役	(注5)	
監査役	植 松 則 行	1960年 6月24日	1985年 3月 等松・青木監査法人(現 有限責任監査法人 トーマツ)入所 1988年10月 公認会計士登録 1997年 6月 デロイトトーマツコンサルティング株式会社入社 1999年 6月 同社製造グループ・九州事業部担当パートナー 2008年 7月 植松公認会計士事務所所長(現任) 2011年 7月 有限会社エス・ユー・コンサルタント代表取締役 役(現任) 2012年 6月 株式会社NJK社外監査役 2013年 2月 国際マネジメントシステム認証機構株式会社社 外監査役(現任) 2015年 1月 株式会社鎌倉新書社外監査役 2016年 4月 同社 社外取締役・監査等委員 2016年 6月 アステラス製薬株式会社社外監査役 2018年 6月 同社 社外取締役・監査等委員 2019年 3月 LINE株式会社社外監査役 2022年 3月 当社社外監査役(現任) 2022年 8月 ハナマルキ株式会社社外監査役(現任) 2024年 6月 富士電機株式会社社外監査役(現任) 2025年 6月 ジオリーブグループ株式会社社外監査役(現 任) (重要な兼職の状況) 公認会計士 植松公認会計士事務所所長 有限会社エス・ユー・コンサルタント代表取締役 国際マネジメントシステム認証機構株式会社社外監査役 ハナマルキ株式会社社外監査役 富士電機株式会社社外監査役 ジオリーブグループ株式会社社外監査役	(注6)	
計					8,984,095

- (注) 1. 取締役 磯田満梨(吉田満梨)及び熊平美香は、社外取締役であります。
2. 監査役 田畑正吾、小川義龍及び植松則行は、社外監査役であります。
3. 2025年3月30日の定時株主総会から、1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
4. 2023年3月25日の定時株主総会から、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
5. 2025年3月30日の定時株主総会から、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
6. 2022年3月26日の定時株主総会から、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
7. 代表取締役社長 西端慶久(青野慶久)の所有株式数には、同氏が代表取締役社長を務めるCbzサポーターズ株式会社の所有株式数8,106,300株が含まれております。
8. 代表取締役社長 西端慶久(青野慶久)、取締役 岡田陸、田岡朋弥及び永岡恵美子の所有株式数には、株式累積投資を利用した実質保有分も含まれております。

2026年3月28日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「取締役6名選任の件」及び「監査役1名選任の件」を上程しており、当該決議が承認可決されますと、当社の役員の状況及びその任期は、以下の通りとなる予定であります。なお、当該定時株主総会の直後に開催が予定される取締役会の決議事項までの内容（役職等）を含めて記載しております。

男性 6名 女性 3名（役員のうち女性の比率 33.4%）

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
代表取締役 社長	西 端 慶 久 (青野 慶久)	1971年6月26日	1994年4月 松下電工株式会社入社 1997年8月 当社設立 取締役副社長 2005年4月 当社代表取締役社長(現任) 2015年4月 サイボウズ・ラボ株式会社代表取締役社長 2025年6月 株式会社エヒメスポーツエンターテイメント 取締役会長(現任) (重要な兼職の状況) 株式会社エヒメスポーツエンターテイメント取締役会長	(注3)	8,976,027 (注7) (注8)
取締役	岡 田 陸	1997年5月28日	2020年4月 当社入社(現人事本部所属) 2021年3月 当社取締役 2024年3月 当社取締役(現任)	(注3)	1,965 (注8)
取締役	田 岡 朋 弥	1997年4月9日	2022年4月 当社入社(現経営支援本部及びチームワークあ ふれるまちづくり室所属) 2024年3月 当社取締役(現任)	(注3)	911 (注8)
取締役	永 岡 恵 美 子	1971年11月4日	1992年4月 株式会社日本興業銀行入行 2007年9月 ザ・レジェンド・ホテルズ&トラスト株式会 社入社 2008年7月 株式会社東京スター銀行入行 2010年2月 株式会社企業再生支援機構入社 2012年10月 株式会社エアウィーヴ入社 2013年3月 株式会社PLUS-Y入社 2014年5月 当社入社(現マーケティング本部所属) 2025年3月 当社取締役(現任)	(注3)	5,192 (注8)
取締役	磯 田 満 梨 (吉田 満梨)	1980年11月5日	2009年4月 首都大学東京都市教養学部経営学系助教 2010年4月 立命館大学経営学部准教授 2021年4月 神戸大学大学院経営学研究科准教授 2023年4月 京都大学経営管理大学院「哲学的企業家研究寄 附講座」客員准教授(現任) 2024年5月 株式会社やまと社外取締役(現任) 2025年3月 当社社外取締役(現任) 2026年1月 神戸大学大学院経営学研究科教授(現任) (重要な兼職の状況) 神戸大学大学院経営学研究科教授 京都大学経営管理大学院「哲学的企業家研究寄附講座」客員准 教授 株式会社やまと社外取締役	(注3)	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
取締役	熊平美香	1960年9月22日	1985年4月 株式会社熊平製作所入社 1989年5月 株式会社熊平製作所取締役 1990年6月 株式会社東京クマヒラ常務取締役 1993年4月 The Bear Group Inc.代表取締役 1996年1月 株式会社藤田商店入社 1997年4月 株式会社エイテッククマヒラ 代表取締役(現任) 1998年4月 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科 非常勤講師 2004年4月 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 取締役 2011年4月 一般財団法人クマヒラセキュリティ財団 代表理事(現任) 2014年4月 昭和女子大学ダイバーシティ推進機構キャリア カレッジ学院長(現任) 2015年9月 一般社団法人21世紀学び研究所 代表理事(現任) 2019年6月 日鍛バルブ株式会社(現 株式会社NITTAN) 社外取締役(現任) 2020年2月 キュービー株式会社社外監査役(現任) 2022年11月 学校法人日本大学顧問(現任) 2023年12月 株式会社ベター・プレイス社外取締役 2024年3月 当社社外取締役(現任) 2024年4月 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科特 任教授(現任) 2025年2月 株式会社ベター・プレイス顧問(現任) 2025年6月 大日本印刷株式会社社外取締役(現任) (重要な兼職の状況) 株式会社エイテッククマヒラ代表取締役 青山学院大学大学院国際マネジメント研究科特任教授 一般財団法人クマヒラセキュリティ財団代表理事 昭和女子大学ダイバーシティ推進機構キャリアカレッジ学院長 一般社団法人21世紀学び研究所代表理事 株式会社NITTAN社外取締役 キュービー株式会社社外監査役 学校法人日本大学顧問 株式会社ベター・プレイス顧問 大日本印刷株式会社社外取締役	(注3)	
監査役 (常勤)	田畑正吾	1971年7月10日	1995年4月 株式会社日本興業銀行入行 2000年1月 株式会社インフォキャスト設立 同社取締役 2000年9月 インデックスデジタル株式会社(現 シナジー マーケティング株式会社)設立 同社取締役 2005年6月 株式会社四次元グループ(現 シナジーマーケ ティング株式会社)設立 同社取締役 2006年7月 シナジーマーケティング株式会社取締役副社長 2013年1月 米国法人 SMIA Corporation 設立 CEO 2015年3月 当社社外監査役(現任) 2022年7月 Micoworks株式会社社外監査役(現任) (重要な兼職の状況) Micoworks株式会社社外監査役	(注4)	

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数(株)
監査役	小川 義 龍	1964年 4月15日	1991年11月 司法試験合格 1992年 4月 最高裁判所司法研修所入所 1994年 4月 佐瀬米川法律事務所入所 1999年 8月 小川義龍法律事務所(現 小川綜合法律事務所) 開設同所代表弁護士(現任) 2000年10月 当社顧問弁護士 (注5) 2002年 4月 当社社外監査役(現任) 2019年 3月 トヨクモ株式会社社外監査役(現任) (重要な兼職の状況) 弁護士 小川綜合法律事務所代表 トヨクモ株式会社社外監査役		
監査役	植 松 則 行	1960年 6月24日	1985年 3月 等松・青木監査法人(現 有限責任監査法人 トーマツ)入所 1988年10月 公認会計士登録 1997年 6月 デロイトトーマツコンサルティング株式会社入社 1999年 6月 同社製造グループ・九州事業部担当パートナー 2008年 7月 植松公認会計士事務所所長(現任) 2011年 7月 有限会社エス・ユー・コンサルタント代表取締役 役(現任) 2012年 6月 株式会社NJK社外監査役 2013年 2月 国際マネジメントシステム認証機構株式会社社 外監査役(現任) 2015年 1月 株式会社鎌倉新書社外監査役 2016年 4月 同社 社外取締役・監査等委員 2016年 6月 アステラス製薬株式会社社外監査役 2018年 6月 同社 社外取締役・監査等委員 (注6) 2019年 3月 LINE株式会社社外監査役 2022年 3月 当社社外監査役(現任) 2022年 8月 ハナマルキ株式会社社外監査役(現任) 2024年 6月 富士電機株式会社社外監査役(現任) 2025年 6月 ジオリーブグループ株式会社社外監査役(現 任) (重要な兼職の状況) 公認会計士 植松公認会計士事務所所長 有限会社エス・ユー・コンサルタント代表取締役 国際マネジメントシステム認証機構株式会社社外監査役 ハナマルキ株式会社社外監査役 富士電機株式会社社外監査役 ジオリーブグループ株式会社社外監査役		
計					8,984,095

- (注) 1. 取締役 磯田満梨(吉田満梨)及び熊平美香は、社外取締役であります。
2. 監査役 田畑正吾、小川義龍及び植松則行は、社外監査役であります。
3. 2026年3月28日の定時株主総会に承認可決される場合、2026年3月28日の定時株主総会から、1年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
4. 2023年3月25日の定時株主総会から、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
5. 2025年3月30日の定時株主総会から、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
6. 2026年3月28日の定時株主総会に承認可決される場合、2026年3月28日の定時株主総会から、4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会の終結の時までであります。
7. 代表取締役社長 西端慶久(青野慶久)の所有株式数には、同氏が代表取締役社長を務めるCbzサポーターズ株式会社の所有株式数8,106,300株が含まれております。
8. 代表取締役社長 西端慶久(青野慶久)、取締役 岡田陸、田岡朋弥及び永岡恵美子の所有株式数には、株式累積投資を利用した実質保有分も含まれております。

社外役員の状況

当社の社外取締役は、豊富な経験及び見識に基づき、第三者的な立場で意見・助言等を行っております。

また、当社は、コーポレート・ガバナンスにおける外部からの客観的かつ中立的な経営監視機能の重要性を認識しており、監査役3名のうち3名（うち1名を常勤監査役）全員を社外監査役としております。社外監査役3名は、取締役会へ出席し意見を述べるほか、会計監査人及び内部監査部門を通じた経営監視も行っており、外部からの経営監視機能が十分に機能する体制が整っております。

なお、当社では、インサイダー情報やプライバシー、取引先との契約に基づく守秘義務等に配慮したうえで、経営会議の議事を含む経営に関するあらゆる情報を、社外取締役及び社外監査役にも公明正大に共有しております。また、これらの情報について、定期的に補足説明を行う体制を整備しております。

今後も、経営環境や事業戦略の変化を踏まえ、取締役会における十分な議論の確保、迅速かつ柔軟な意思決定及び適切な業務執行が可能となる経営体制の整備・充実に努めてまいります。

当社は社外取締役及び社外監査役を選任するための独立性に関する基準又は方針として明確に定めたものではありませんが、選任にあたっては、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣からの独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを前提に判断しております。

社外取締役の磯田満梨（吉田満梨）氏は、当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係がなく、当社の一般株主との利益相反が生じるおそれはないものと判断しております。

社外取締役の熊平美香氏は、当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係がなく、当社の一般株主との利益相反が生じるおそれはないものと判断しております。

社外監査役の田畑正吾氏は、当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係がなく、当社の一般株主との利益相反が生じるおそれはないものと判断しております。

社外監査役の小川義龍氏は、当社の顧問弁護士を務めておりましたが、現在は顧問契約を終了しており、当社の一般株主との利益相反が生じるおそれはないものと判断しております。また、同氏は当社の投資先であるトヨクモ株式会社の社外監査役を兼職しておりますが、同社と当社の間には特別の利害関係はなく、かつ同社は特定関係事業者ではないことから、当社の一般株主との利益相反が生じるおそれはないものと判断しております。

社外監査役の植松則行氏は、当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係がなく、当社の一般株主との利益相反が生じるおそれはないものと判断しております。

(3) 【監査の状況】

内部監査の状況

内部監査部門が、年間計画に基づき、各部署及び関係会社の業務進捗状況に関して、「適法性・妥当性・効率性」等の観点のもと、内部統制にかかる監査を実施しております。これら内部監査の結果は、代表取締役社長及び被監査部門長に報告し、被監査部門より改善計画書を提出させ、代表取締役社長に改善計画を報告し、改善計画の承認を受けております。更にフォローアップ監査にて改善計画の進捗状況をチェックしております。また、監査実施状況及び監査結果について、内部監査部門から取締役会へ直接報告する仕組みはありませんが、内部監査の実効性を確保するため、内部監査部門から監査役会及び経営会議へ直接報告しております。

監査役監査の状況

<監査役監査の組織、人員及び手続>

当社の監査役は3名であり、常勤監査役1名と社外監査役2名から構成されております。常勤監査役の田畑正吾氏は、国内IT企業の起業や米国IT企業のCEOを務めた経験から、経営全般に関し豊富な知識を有しております。社外監査役の小川義龍氏は、弁護士の資格を有し、法律に関する専門的知見を有しております。社外監査役の植松則行氏は、公認会計士の資格を有し、財務及び会計に関する専門的知見を有しております。なお、当社は、2026年3月28日開催予定の定時株主総会の議案（決議事項）として、「監査役1名選任の件」を提案しており、当該議案が承認可決されますと、監査役3名（うち社外監査役3名）となる予定です。

監査役会では、主に、常勤監査役が報告する各部署及び関係会社の業務に関して違法性の疑義のあるもの又は妥当性に欠けるもの及び内部監査部門が報告する業務関連事項が検討されております。各監査役は、毎月開催される社外役員向けの業務関連事項の説明会議へ出席し、企業活動全般に関する最新の情報共有を受けるとともに、内部監査部門より、監査役会において業務関連事項及び監査に関する重要事項等について報告を受けております。また、内部監査部門より、必要に応じてグループウェアを利用した報告もを受けております。各監査役は毎月開催される取締役会へ出席し意見を述べており、取締役会においても業務執行に関する実効的な監査を行っております。

<監査役及び監査役会の活動状況>

当事業年度において当社は監査役会を12回開催しており、各監査役の出席状況は以下の通りです。

開催日時	田畑正吾氏	小川義龍氏	植松則行氏
2025-01-22	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-02-17	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-03-19	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-04-16	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-05-19	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-06-18	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-07-16	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-08-20	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-09-17	出席（注1）	出席（注1）	欠席
2025-10-22	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-11-19	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）
2025-12-17	出席（注1）	出席（注1）	出席（注1）

注1：Web会議システムによる出席

会計監査の状況

(a) 監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

(b) 継続監査期間

20年間

(c) 業務を執行した公認会計士の氏名

指定有限責任社員 業務執行社員 成島 徹

指定有限責任社員 業務執行社員 寺田 裕

なお、継続監査年数については、両氏とも7年以内であるため、記載を省略しております。

(d) 監査業務にかかる補助者の構成

公認会計士 13名 公認会計士試験合格者等 7名 その他 17名

(e) 会計監査人の選定方針と理由

当社は、有限責任 あずさ監査法人より同法人の体制等について説明を受け、同法人の独立性、品質管理体制、専門性の有無、当社グループが行っている事業分野への理解度及び監査報酬等を総合的に評価した結果、当該監査法人を会計監査人として選定することが妥当であると判断いたしました。

また、当社は次の場合において、監査役会にて適否を判断したうえで、株主総会に会計監査人の解任又は不
再任に関する議案を提出する方針とします。

- 1 会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合
- 2 会計監査人の職務の執行に支障がある場合、又は必要があると判断した場合

(f) 監査役及び監査役会による会計監査人の評価

当社の監査役会は、会計監査人の自己評価及び業務執行部門へのヒアリングを踏まえたうえで、以下の観点
で会計監査人を評価しております。

- ・会計監査人としての相当性
- ・監査の品質及びコミュニケーションの評価
- ・監査報酬の妥当性

(監査報酬の内容等)

(監査公認会計士等に対する報酬の内容)

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)	監査証明業務に 基づく報酬(百万円)	非監査業務に 基づく報酬(百万円)
提出会社	31	37	32	40
連結子会社				
計	31	37	32	40

当社の非監査業務は、ISMAP情報セキュリティ監査ガイドラインにて定義された政府情報システムのためのセキュリ
ティ評価制度における調査業務、クラウドサービスのセキュリティに関するSOC 1 保証報告書の事前診断業務、及び
SOC 2 Type 2 報告書作成業務であります。

(監査公認会計士等と同一のネットワークに対する報酬) 監査公認会計士等に対する報酬を除く
該当事項はありません。

(その他重要な報酬の内容)
該当事項はありません。

(監査報酬の決定方針)

当社では、監査公認会計士等と協議した上で、当社の業務の特性等に基づいた監査日程・要員数等を総合的に勘案して決定しております。

(監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由)

当社の監査役会は、取締役、内部監査部門及び会計監査人からの必要な資料の入手及び報告の聴取を通じ、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務執行状況、報酬見積りの算定根拠等を確認し、検討した結果、会計監査人の報酬等の額につき、会社法第399条第1項の同意を行っております。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

(a) 取締役の報酬等の内容に係る決定方針等

当社は、2006年4月20日開催の第9回定時株主総会において、当社取締役の報酬等の総額は年額200百万円以内(ただし、使用人分給とは含みません。)とする旨の決議をいただいております。なお、当該定時株主総会終結時点における取締役の員数は7名であり、うち2名が社外取締役でした。また、2025年3月30日開催の第28回定時株主総会において、上記の報酬等の枠とは別枠にて、当社業務執行取締役に対する譲渡制限付株式の付与のための報酬(以下、「譲渡制限付株式報酬」といいます。)に関し、付与する金銭報酬債権の総額は年100百万円以内、付与する譲渡制限付株式は年10万株以内とする旨、その他会社法施行規則第98条の4第1項各号に定める事項と併せて決議をいただいております。なお、当該定時株主総会終結時点において対象となる業務執行取締役の員数は1名でした。当社は、上記各株主総会決議を前提として、取締役の個人別の報酬等の内容についての決定に関する方針(以下「基本方針」といいます。)を次のとおり定めております。

(基本方針の決定方法)

当社においては、基本方針を、各部門責任者が出席し、全従業員が原則参加可能な経営会議において、多方面から意見を募り、助言を得たうえで審議し、取締役会が、当該審議内容を踏まえて決定しております。当事業年度において、2025年10月開催の取締役会にて、基本方針の改定を決議しております。

(基本方針の内容の概要)

・代表取締役(業務執行取締役)の報酬等について

代表取締役の報酬等は、基本報酬(月額報酬)、非金銭報酬(譲渡制限付株式報酬)及び業績連動報酬(特別賞与)で構成されております。

基本報酬は、月に1回金銭で固定額が支給されます。基本報酬の具体的な金額については、個別評価チーム(代表取締役が指名する執行役員3名で構成され、指名理由については取締役会に報告しております。)が、代表取締役(業務執行取締役)本人の自己評価や報酬に関する希望をヒアリングし、その内容を踏まえつつ、代表取締役(業務執行取締役)としての役割及び責任、業績等を総合的に勘案し、原案を作成しております。当該原案については、個別評価チーム(3名)以外の執行役員から意見を募り、助言を得るとともに、取締役会にて内容及びプロセスが適正であることについて取締役及び監査役による監督・監査を受けたうえで、取締役会から委任を受けた個別評価チームが、これらの助言内容及び監督・監査の内容を踏まえて最終的に決定しております。なお、経営陣は全社横断的かつ中長期的な視点で理想の設定、戦略の策定及び実行の統括を行っており、そのような経営陣の複数名が個別評価チームを構成することで、特定の者への権限集中又は依存を防止しつつ、多角的な観点から業績を評価することが可能となるため、取締役会は、当該委任は適切であると判断しております。

譲渡制限付株式報酬（非金銭報酬）は、当社の企業理念を実現させ、長期的かつ持続的な企業成長へのコミットメントを期待する目的で、上記の2025年3月30日開催の第28回定時株主総会決議の枠内において、年に1回支給しております。譲渡制限付株式の付与にあたっては、譲渡制限付株式の付与に関する取締役会決議日において業務執行取締役の地位にあることを条件として、取締役会決議に基づき金銭報酬債権を支給いたします。業務執行取締役は、当該金銭報酬債権の全部を現物出資財産として給付し、当社の普通株式の発行又は処分を受けるものとします。当該普通株式の1株当たりの払込金額は、当該取締役会決議日の前営業日における東京証券取引所における当社普通株式の終値（同日に取引が成立していない場合には、それに先立つ直近取引日の終値）としております。なお、当社普通株式の発行又は処分にあっては、当社と業務執行取締役との間で、譲渡制限付株式割当契約を締結することを条件としております。また、具体的な支給時期及び支給額については、毎年取締役会において決議しております。

特別賞与は、中長期事業戦略の達成に向けて、全社一体となって高いパフォーマンスを発揮することを目的として、代表取締役及び従業員に対して、各事業年度における連結売上高（本事業年度における連結売上高は48頁に記載のとおりです。）を指標とし、その売上目標の達成状況に応じて、原則として勤続年数等に関わらず一律の金額を支給するものとしております。特別賞与（代表取締役の業績連動報酬を含む。）に係る売上目標、達成金額、賞与額及び支給時期については、担当部署（全社戦略本部）が原案を作成し、その後、経営会議において、それらの適正性について多方面から意見を募り、助言を得たうえで、担当部署（全社戦略本部）を統括する代表取締役又は執行役員が決定します。なお、当該決定の結果は取締役会にも報告されております。当該事業年度にかかる代表取締役に対する特別賞与の具体的な金額及び支給時期等については、担当部署（全社戦略本部）を統括する代表取締役西端慶久（青野慶久）氏が最も特別賞与の意義や目的を知悉していることから、同氏が取締役会から委任を受けて最終的に決定しましたが、前述のとおり、従業員と同一の基準によるものとされており、当該基準は上記のとおり多方面からの意見と助言を得て決定されておりますので、同氏の権限が適切に行使されるものと考えております。

・代表取締役以外の社内取締役の報酬等について

代表取締役以外の社内取締役の報酬等は、基本報酬（月額報酬）のみで構成されております。

基本報酬は、月に1回金銭で固定額が支給されます。基本報酬の具体的な金額については、取締役会から委任を受けた代表取締役西端慶久（青野慶久）氏が、社内取締役としての役割及び責任等を総合的に勘案し、経営会議において意見を募り、助言を得たうえで、当該助言内容を踏まえて決定しております。なお、代表取締役西端慶久（青野慶久）氏は、取締役会の一員として社内取締役として求められる役割及び責任を熟知しており、社内取締役の職務執行の状況を把握・監視できる立場にあることから、取締役会は、当該委任は適切であると判断しております。

・社外取締役の報酬等について

社外取締役の報酬等は、基本報酬（月額報酬）のみで構成されております。

基本報酬は、月に1回金銭で固定額が支給されます。基本報酬の具体的な金額については、取締役会から委任を受けた人事本部担当執行役員中根弓佳氏が、社外取締役としての役割及び責任等を総合的に勘案し、経営会議において意見を募り、助言を得たうえで、当該助言内容を踏まえて決定しております。なお、人事本部担当執行役員中根弓佳氏は、取締役会事務局の責任者として社外取締役として求められる役割及び責任を熟知しており、社外取締役の職務執行の状況を把握・監視できる立場にあることから、取締役会は、当該委任は適切であると判断しております。

(b) 監査役の報酬等の内容に係る決定方針等

当社は監査役の報酬について、株主総会の決議により定める旨を定款にて規定しており、2007年4月24日開催の第10回定時株主総会において、その報酬限度額は年額30百万円以内と決議いただいております。当該定時株主総会終結時点の監査役の員数は3名です。監査役の報酬は、経営に対する独立性・客観性を重視する観点から会社業績との連動を行わず基本報酬のみで構成されており、各監査役の報酬額は、報酬限度額の範囲内において監査役の協議によって決められております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別総額(百万円)			対象となる 役員の員数 (名)
		固定報酬	業績連動報酬	非金銭報酬等	
取締役 (社外取締役を除く)	36	17	0	18	5
監査役 (社外監査役を除く)	-	-	-	-	-
社外役員	17	17	-	-	6

役員ごとの連結報酬等の総額

連結報酬等の総額が1億円以上であるものが存在しないため、記載しておりません。

使用人兼務役員の使用人分給与のうち重要なもの

該当事項はありません。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、投資株式について、もっぱら株式の価値の変動又は配当の受領によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式、それ以外の株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）に区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

(a) 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、業務提携、取引の維持・強化等事業活動上の必要性及び当該純投資目的以外の目的である投資によって得られる当社の利益と投資額や保有に伴うリスク等を総合的に勘案して、その投資可否を判断します。

また、純投資目的以外の目的である投資株式保有の適否については、当社の成長、事業展開等への寄与、投資効率等を勘案して担当部署が精査し、保有の継続について検討事項が生じた場合は必要に応じて経営会議等の社内意思決定機関で検証を行っております。

(b) 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	9	95
非上場株式以外の株式	2	2,306

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る 取得価格の合計(百万円)	株式数の増加理由
非上場株式	2	59	エコシステムの拡大のため

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

(c) 特定投資株式及びみなし保有株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、業務提携等の概要、 定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
株式会社ソフト クリエイティブ ホールディングス	48,600	48,600	当社製品の販売パートナーとしての関係を維持・強化するため保有しております。	無
	104	111		
トヨクモ株式会 社	800,000	800,000	当社製品の連携製品販売パートナーとしての関係を維持・強化するため保有しております。	無
	2,201	1,724		

(注) 定量的な保有効果は記載が困難であります。 「(a) 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容」に記載の方法で、保有の適否を個別銘柄ごとに検証しております。

保有目的が純投資目的である投資株式

該当事項はありません。

当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの

該当事項はありません。

当事業年度の前4事業年度及び当事業年度に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの

該当事項はありません。

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2025年1月1日から2025年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2025年1月1日から2025年12月31日まで)の財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人により監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組について

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組として、会計基準等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、会計の基準及び制度を解説する専門誌を定期購読すると共に、監査法人等が行うセミナーに参加しております。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,589	11,694
売掛金	4,212	5,220
未収入金	1,027	1,200
商品及び製品	-	6
仕掛品	2	11
原材料及び貯蔵品	31	33
その他	1,075	1,253
貸倒引当金	5	5
流動資産合計	11,933	19,416
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,335	1,363
減価償却累計額	717	829
建物（純額）	617	533
工具、器具及び備品	10,680	13,325
減価償却累計額	6,858	9,048
工具、器具及び備品（純額）	3,822	4,276
建設仮勘定	-	45
その他	4	14
減価償却累計額	0	4
その他（純額）	3	9
有形固定資産合計	4,442	4,865
無形固定資産		
ソフトウェア	409	579
のれん	-	106
その他	29	35
無形固定資産合計	438	721
投資その他の資産		
投資有価証券	1 2,261	1 2,695
敷金及び保証金	785	775
繰延税金資産	1,104	1,482
その他	121	182
貸倒引当金	0	0
投資その他の資産合計	4,273	5,135
固定資産合計	9,154	10,723
資産合計	21,087	30,140

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	0	0
1年内返済予定の長期借入金	-	11
未払金	798	901
未払費用	1,663	1,773
未払法人税等	1,365	2,984
契約負債	4,867	5,424
ポイント引当金	38	43
その他	552	970
流動負債合計	9,287	12,109
固定負債		
長期借入金	-	24
資産除去債務	161	162
その他	5	28
固定負債合計	166	215
負債合計	9,454	12,324
純資産の部		
株主資本		
資本金	613	613
資本剰余金	5,022	5,105
利益剰余金	8,709	14,404
自己株式	4,275	4,251
株主資本合計	10,069	15,873
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,265	1,591
為替換算調整勘定	294	345
その他の包括利益累計額合計	1,560	1,936
非支配株主持分	3	5
純資産合計	11,633	17,815
負債純資産合計	21,087	30,140

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年 1月 1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年 1月 1日 至 2025年12月31日)
売上高	1 29,675	1 37,430
売上原価	2,940	3,736
売上総利益	26,735	33,694
販売費及び一般管理費		
人件費	9,389	9,826
業務委託費	930	932
広告宣伝費	5,618	6,370
研究開発費	2 1,228	2 1,491
退職給付費用	35	35
その他	4,638	4,937
販売費及び一般管理費合計	21,842	23,593
営業利益	4,892	10,101
営業外収益		
受取利息	6	14
受取配当金	17	20
投資事業組合運用益	-	13
協賛金収入	171	184
為替差益	270	-
会費収入	44	48
その他	33	25
営業外収益合計	543	307
営業外費用		
支払利息	0	0
業務受託費	12	10
売上債権売却損	46	58
投資事業組合運用損	31	-
為替差損	-	11
その他	9	1
営業外費用合計	100	82
経常利益	5,335	10,325
特別利益		
固定資産売却益	3 0	3 0
固定資産受贈益	-	81
特別利益合計	0	81
特別損失		
減損損失	4 2	4 2
固定資産除売却損	5 3	5 0
投資有価証券評価損	-	79
事業構造改善費用	6 150	-
特別損失合計	156	82
税金等調整前当期純利益	5,179	10,325
法人税、住民税及び事業税	1,961	3,816
法人税等調整額	338	521
法人税等合計	1,623	3,295
当期純利益	3,555	7,030
非支配株主に帰属する当期純利益又は非支配株主に 帰属する当期純損失()	0	51
親会社株主に帰属する当期純利益	3,555	7,081

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
当期純利益	3,555	7,030
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	407	325
為替換算調整勘定	9	50
その他の包括利益合計	417	376
包括利益	3,973	7,406
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,972	7,456
非支配株主に係る包括利益	0	50

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	613	5,022	5,820	1,346	10,110
当期変動額					
剰余金の配当			666		666
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,555		3,555
自己株式の取得				2,929	2,929
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	-	2,888	2,929	41
当期末残高	613	5,022	8,709	4,275	10,069

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	858	284	1,142	-	11,253
当期変動額					
剰余金の配当					666
親会社株主に帰属する 当期純利益					3,555
自己株式の取得					2,929
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	407	9	417	3	421
当期変動額合計	407	9	417	3	380
当期末残高	1,265	294	1,560	3	11,633

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	613	5,022	8,709	4,275	10,069
当期変動額					
剰余金の配当			1,386		1,386
親会社株主に帰属する 当期純利益			7,081		7,081
自己株式の処分		83		24	107
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	83	5,695	24	5,803
当期末残高	613	5,105	14,404	4,251	15,873

	その他の包括利益累計額			非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	その他の包括利益 累計額合計		
当期首残高	1,265	294	1,560	3	11,633
当期変動額					
剰余金の配当					1,386
親会社株主に帰属する 当期純利益					7,081
自己株式の処分					107
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	325	50	376	1	378
当期変動額合計	325	50	376	1	6,181
当期末残高	1,591	345	1,936	5	17,815

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	5,179	10,325
減価償却費	2,254	2,600
ソフトウェア償却費	98	131
のれん償却額	-	5
固定資産除売却損益(は益)	2	0
固定資産受贈益	-	81
投資事業組合運用損益(は益)	31	13
投資有価証券評価損益(は益)	-	79
減損損失	2	2
貸倒引当金の増減額(は減少)	1	0
受取利息及び受取配当金	23	35
支払利息	0	0
事業構造改善費用	150	-
売上債権の増減額(は増加)	791	1,000
未収入金の増減額(は増加)	190	170
棚卸資産の増減額(は増加)	10	15
仕入債務の増減額(は減少)	0	0
未払金の増減額(は減少)	86	46
未払費用の増減額(は減少)	164	258
契約負債の増減額(は減少)	1,002	431
ポイント引当金の増減額(は減少)	1	4
その他	685	485
小計	7,291	13,054
利息及び配当金の受取額	23	35
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	1,710	2,279
法人税等の還付額	0	13
事業構造改善費用の支払額	3	147
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,601	10,676
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	2,691	2,879
無形固定資産の取得による支出	280	318
投資有価証券の取得による支出	160	59
敷金及び保証金の差入による支出	33	29
敷金及び保証金の回収による収入	84	4
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	-	2 151
その他	8	29
投資活動によるキャッシュ・フロー	3,089	3,102
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	-	4
自己株式の取得による支出	2,939	-
配当金の支払額	662	1,383
その他	3	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,599	1,388
現金及び現金同等物に係る換算差額	183	80
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	902	6,104
現金及び現金同等物の期首残高	6,492	5,589
現金及び現金同等物の期末残高	1 5,589	1 11,694

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社の数及び連結子会社の名称

連結子会社の数 10社

連結子会社の名称

サイボウズ・ラボ株式会社
サイボウズ・コネクトシー株式会社
株式会社エヒメスポーツエンターテイメント
才望子信息技术(上海)有限公司
Cybozu Vietnam Co., Ltd.
Kintone Corporation
KINTONE AUSTRALIA PTY., LTD.
KINTONE SOUTHEAST ASIA SDN. BHD.
Kintone Thai Holdings Co., Ltd.
Kintone (Thailand) Co., Ltd.

当連結会計年度において、株式会社エヒメスポーツエンターテイメントの株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社の数及び主要な会社等の名称

持分法を適用した関連会社の数 0社

(2) 持分法を適用しない関連会社の名称等

持分法を適用しない関連会社の名称

株式会社ジェイヤド
タイムコンシェル株式会社

持分法を適用しない理由

持分法を適用しない関連会社は、それぞれ当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等に及ぼす影響が軽微であり、全体としても重要性がないため、持分法を適用しておりません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の事業年度の末日が、連結決算日と異なる会社は次のとおりです。

会社名 株式会社エヒメスポーツエンターテイメント 決算日 6月30日

連結財務諸表の作成にあたって決算日の差異が3か月を超えることから、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

(a) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(b) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

棚卸資産

商品及び製品

主として先入先出法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

仕掛品

主として個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

原材料及び貯蔵品

主として先入先出法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

主として定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備については定額法を採用しております。また、在外連結子会社は定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりです。

- ・建物... 5～18年
- ・工具、器具及び備品... 3～15年

無形固定資産

(a) 市場販売目的ソフトウェア

見込販売可能期間（12ヶ月）における見込販売収益に基づく償却額と見込販売可能期間に基づく定額償却額のいずれか大きい額により償却しております。

(b) 自社利用ソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づき、均等償却を行っております。

(c) のれん

その効果が発現すると見積られる期間で均等償却しております。

(d) その他の無形固定資産

定額法を採用しております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

ポイント引当金

パートナー企業に付与したポイントの使用に備えるため、将来の使用見込額を計上しております。

(4) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループの主要な事業はソフトウェアの開発・販売であり、顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

なお、取引の対価は、契約における支払期限に応じて履行義務の充足前又は履行義務の充足後概ね6か月以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

ソフトウェアのクラウドサービス

当社グループにおけるソフトウェアのクラウドサービスは、契約期間にわたるクラウド上のソフトウェアへのアクセス環境及びサポートの提供が主な履行義務であります。当該取引は、契約期間にわたり均一のサービスを提供するものであるため、時の経過に応じて履行義務が充足されると判断し、顧客との契約期間に従い一定期間にわたって収益を認識しております。

ソフトウェアのライセンス販売

当社グループにおけるソフトウェアのライセンス販売は、顧客との契約に基づき、パッケージ製品を販売することが主な履行義務であります。当該取引は、顧客へパッケージ製品を引き渡し、ソフトウェアが使用可能となった時点で履行義務が充足されるため、当該時点で収益を認識しております。

また、パッケージ製品に関連する継続した保守サービス等は、契約期間にわたる保守サービスの提供が主な履行義務であります。当該取引は、契約期間にわたり均一のサービスを提供するものであるため、時の経過に応じて履行義務が充足されると判断し、顧客との契約期間に従い一定期間にわたって収益を認識しております。

ソフトウェアの請負開発契約等

当社グループにおけるソフトウェアの請負開発契約等は、顧客との契約に基づくソフトウェアの開発等が主な履行義務であります。当該取引は、ごく短期間の契約を除き、プロジェクト進捗による履行義務の充足に伴い一定期間にわたって収益を認識しております。

(5) 重要な外貨建資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における現金及び現金同等物は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクを負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前連結会計年度	当連結会計年度
繰延税金資産（繰延税金負債と相殺前）	1,673	2,188

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

算出方法

繰延税金資産は、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」（企業会計基準適用指針第26号）に定める会社分類に基づき、当連結会計年度末における将来減算一時差異等に対して、将来の税金負担額を軽減することができる範囲内で計上しております。

主要な仮定

繰延税金資産の回収可能性は、会社分類の妥当性、将来の課税所得の十分性、将来減算一時差異の将来解消見込年度のスケジュールリングに用いられる仮定に依存します。課税所得の見積りは事業計画を基礎としており、そこでの主要な仮定は、過年度の実績と市場傾向を勘案して見積もった売上予測であります。

翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

当該見積りは将来の不確実な経済条件の変動などによって影響を受ける可能性があり、実際に発生した利益及び課税所得の時期及び金額が見積りと異なった場合、翌連結会計年度の連結財務諸表において、繰延税金資産の金額に重要な影響を与える可能性があります。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日)、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 2022年10月28日)及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日)を当連結会計年度の期首から適用しております。なお、連結財務諸表に与える影響はありません。

(未適用の会計基準等)

リースに関する会計基準等

- ・「リースに関する会計基準」(企業会計基準第34号 2024年9月13日)
- ・「リースに関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第33号 2024年9月13日)

ほか、関連する企業会計基準、企業会計基準適用指針、実務対応報告及び移管指針の改正

(1) 概要

国際的な会計基準と同様に、借手のすべてのリースについて資産・負債を計上する等の取扱いを定めるものです。

(2) 適用予定日

2028年12月期の期首より適用予定であります。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「リースに関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中です。

(連結貸借対照表関係)

1 関連会社に対するものは次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
投資有価証券(株式)	48百万円	48百万円

2 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

連結会計年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
当座貸越極度額 及び貸出コミットメントの総額	4,350 百万円	4,350 百万円
借入実行残高	- 百万円	- 百万円
差引額	4,350 百万円	4,350 百万円

(連結損益計算書関係)

1 顧客との契約から生じる収益

売上高については、顧客との契約から生じる収益及びそれ以外の収益を区分して記載しておりません。顧客との契約から生じる収益の金額は、連結財務諸表「注記事項（収益認識関係） 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報」に記載しております。

2 前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

一般管理費に含まれる研究開発費は、1,228百万円であります。なお、売上原価に研究開発費は含まれておりません。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

一般管理費に含まれる研究開発費は、1,491百万円であります。なお、売上原価に研究開発費は含まれておりません。

3 固定資産売却益の主な内訳

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
固定資産売却益		
工具、器具及び備品	0百万円	0百万円

4 減損損失

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失
米国 カリフォルニア州 (Kintone Corporation)	事業用資産	工具、器具及び備品	2百万円

当社グループは、各社単位でグルーピングを行っております。

連結子会社であるKintone Corporationでは、営業活動から生じる損益が継続してマイナスであったため、短期的な業績回復が見込まれないと判断した事業用資産について回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失計上しております。

なお、回収可能価額は、使用価値をゼロとして算定しております。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

場所	用途	種類	減損損失
米国 カリフォルニア州 (Kintone Corporation)	事業用資産	工具、器具及び備品	2百万円

当社グループは、各社単位でグルーピングを行っております。

連結子会社であるKintone Corporationでは、営業活動から生じる損益が継続してマイナスであったため、短期的な業績回復が見込まれないと判断した事業用資産について回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として特別損失計上しております。

なお、回収可能価額は、使用価値をゼロとして算定しております。

5 固定資産除売却損の主な内訳

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
固定資産除却損		
工具、器具及び備品	0百万円	0百万円
固定資産売却損		
工具、器具及び備品	2百万円	0百万円

6 事業構造改善費用

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

当社グループの開発体制を最適化するため、連結子会社である才望子信息技术(上海)有限公司の開発事業を廃止したことに伴い発生した人員整理費用等を事業構造改善費用として計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額並びに法人税等及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	587百万円	469百万円
組替調整額	- 百万円	- 百万円
法人税等及び税効果調整前	587百万円	469百万円
法人税等及び税効果額	179百万円	143百万円
その他有価証券評価差額金	407百万円	325百万円
為替換算調整勘定：		
当期発生額	9百万円	50百万円
その他の包括利益合計	417百万円	376百万円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

1. 発行済株式及び自己株式の種類並びに総数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	52,757,800	-	-	52,757,800
合計	52,757,800	-	-	52,757,800
自己株式				
普通株式(注)	5,139,478	1,410,705	-	6,550,183
合計	5,139,478	1,410,705	-	6,550,183

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加1,410,705株は、取締役会決議に基づく自己株式取得による増加1,410,700株及び単元未満株式の買取りによる増加5株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2024年3月30日 定時株主総会	普通株式	666	14.00	2023年12月31日	2024年3月30日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年3月30日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,386	30.00	2024年12月31日	2025年3月31日

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

1. 発行済株式及び自己株式の種類並びに総数に関する事項

	当連結会計年度期首 株式数(株)	当連結会計年度増加 株式数(株)	当連結会計年度減少 株式数(株)	当連結会計年度末 株式数(株)
発行済株式				
普通株式	52,757,800	-	-	52,757,800
合計	52,757,800	-	-	52,757,800
自己株式				
普通株式(注)	6,550,183	1,031	37,511	6,513,703
合計	6,550,183	1,031	37,511	6,513,703

(注)普通株式の自己株式の株式数の増加1,031株は、役務提供期間中の退職により譲渡制限付株式報酬として処分した自己株式を無償取得したことによる増加、減少37,511株は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2025年3月30日 定時株主総会	普通株式	1,386	30.00	2024年12月31日	2025年3月31日

(2) 基準日が当期に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議予定	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2026年3月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,849	40.00	2025年12月31日	2026年3月30日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
現金及び預金勘定	5,589百万円	11,694百万円
預金期間が3ヶ月を超える 定期預金	- 百万円	- 百万円
現金及び現金同等物	5,589百万円	11,694百万円

2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

株式の取得により新たに株式会社エヒメスポーツエンターテイメントを連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の内訳並びに同社株式の取得価額と同社取得による収入(純額)との関係は次のとおりです。

流動資産	329百万円
固定資産	10百万円
のれん	111百万円
流動負債	177百万円
固定負債	57百万円
非支配株主持分	52百万円
株式の取得価額	165百万円
現金及び現金同等物	316百万円
差引：取得による収入	151百万円

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用しております。

また、資金調達が必要な場合には、新株発行や銀行借入、社債発行等を検討してまいります。

デリバティブ取引は、後述するリスクを低減するために利用し、投機的な取引は行わない方針であります。

(2) 金融商品の内容及び当該金融商品に係るリスク

営業債権である売掛金及び未収入金は、顧客の信用リスクに晒されております。投資有価証券は、市場価格の変動リスクに晒されております。

敷金及び保証金は、主に建物賃借時に差し入れているものであり、差入先の信用リスクに晒されております。

未払金は、1年以内の支払期日であります。

長期借入金は、金融機関からの借入であり、資金調達に係る金利リスク及び流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

営業債権については、営業関連部門において取引先の財務状況や取引実績を評価し、それに基づいて定期的な取引限度額の設定・見直しを行うことにより、リスクの軽減を図っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

投資有価証券については、定期的に時価や市況、発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、取引先との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。

外貨建債務等の一部については、為替変動リスクに対して、先物為替予約取引を利用してリスクを低減しております。

資金調達に係る金利リスク及び流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

資金調達時には、金利の変動動向の確認又は他の金融機関との金利比較を行っております。また、入出金の情報を確認し、定期的に資金繰表を作成することによって、流動性リスクを管理しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

前連結会計年度(2024年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 投資有価証券			
其他有価証券	1,836	1,836	-
(2) 敷金及び保証金	604	579	25
資産計	2,441	2,416	25

(*1) 「現金及び預金」「売掛金」「未収入金」「未払金」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2024年12月31日)
投資事業有限責任組合出資金	261
非上場株式	163

これらについては、上表の「(1) 投資有価証券」には含めておりません。

「投資事業有限責任組合出資金」は、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日)第24-16項の取扱いを適用し、時価開示の対象とはしておりません。

「非上場株式」には、関係会社株式が含まれております。

(*3) 「敷金及び保証金」の連結貸借対照表計上額と、連結貸借対照表における「敷金及び保証金」の金額との差額は、敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額(賃借建物の原状回復費用見込額)の未償却残高であります。

当連結会計年度(2025年12月31日)

	連結貸借対照表計上額 (百万円)	時価 (百万円)	差額 (百万円)
(1) 投資有価証券			
其他有価証券	2,306	2,306	-
(2) 敷金及び保証金	630	590	39
資産計	2,936	2,897	39
(1) 長期借入金 (1年内返済予定を含む)	35	34	0
負債計	35	34	0

(*1) 「現金及び預金」「売掛金」「未収入金」「未払金」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略しております。

(*2) 市場価格のない株式等

(単位：百万円)

区分	当連結会計年度 (2025年12月31日)
投資事業有限責任組合出資金	245
非上場株式	143

これらについては、上表の「(1) 投資有価証券」には含めておりません。

「投資事業有限責任組合出資金」は、「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日)第24-16項の取扱いを適用し、時価開示の対象とはしておりません。

「非上場株式」には、関係会社株式が含まれております。

(*) 「敷金及び保証金」の連結貸借対照表計上額と、連結貸借対照表における「敷金及び保証金」の金額との差額は、敷金及び保証金の回収が最終的に見込めないと認められる金額（賃借建物の原状回復費用見込額）の未償却残高であります。

(注) 1．金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2024年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	5,589	-	-	-
売掛金	4,212	-	-	-
未収入金	1,027	-	-	-
合計	10,829	-	-	-

敷金及び保証金604百万円については、重要性が乏しいため、上表には含めておりません。

当連結会計年度(2025年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 5年以内 (百万円)	5年超 10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	11,694	-	-	-
売掛金	5,220	-	-	-
未収入金	1,200	-	-	-
合計	18,116	-	-	-

敷金及び保証金630百万円については、重要性が乏しいため、上表には含めておりません。

(注) 2．社債、長期借入金、リース債務及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2024年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2025年12月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
長期借入金	11	8	6	6	4	-

3．金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

前連結会計年度（2024年12月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 其他有価証券 株式	1,836	-	-	1,836
資産計	1,836	-	-	1,836

当連結会計年度（2025年12月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券 其他有価証券 株式	2,306	-	-	2,306
資産計	2,306	-	-	2,306

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

前連結会計年度（2024年12月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	-	579	-	579
資産計	-	579	-	579

当連結会計年度（2025年12月31日）

区分	時価（百万円）			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
敷金及び保証金	-	590	-	590
資産計	-	590	-	590
長期借入金 （1年内返済予定を含む）	-	34	-	34
負債計	-	34	-	34

（注）時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

敷金及び保証金

敷金及び保証金の時価は、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

長期借入金

元利金の合計額を、同様の新規借入を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2024年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	1,836	12	1,824
合計		1,836	12	1,824

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額115百万円)、投資事業有限責任組合への出資(連結貸借対照表計上額261百万円)については、市場価格のない株式等のため、上表の「投資有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2025年12月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額 (百万円)	取得原価 (百万円)	差額 (百万円)
連結貸借対照表計上額が 取得原価を超えるもの	株式	2,306	12	2,294
合計		2,306	12	2,294

(注) 非上場株式(連結貸借対照表計上額95百万円)、投資事業有限責任組合への出資(連結貸借対照表計上額245百万円)については、市場価格のない株式等のため、上表の「投資有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(2024年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2025年12月31日)

該当事項はありません。

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度(2024年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2025年12月31日)

当連結会計年度において、有価証券について79百万円(その他有価証券の株式79百万円)減損処理を行っております。

なお、市場価格のない株式等については、原則として、期末における実質価額が取得原価に比べて50%以上下落したものについて、回復する見込みがあると認められる場合を除き、減損処理を行っております。減損処理の要否は投資先の超過収益力を反映して検討する場合があります。取得当初の事業計画に対する実績等を勘案して、超過収益力の毀損による実質価額の大幅な低下がないかどうかを判断しております。

(退職給付関係)

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

一部の連結子会社において、確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額は、当連結会計年度35百万円であります。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

1. 採用している退職給付制度の概要

一部の連結子会社において、確定拠出年金制度を採用しております。

2. 確定拠出制度

確定拠出制度への要拠出額は、当連結会計年度35百万円であります。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2024年12月31日)	当連結会計年度 (2025年12月31日)
繰延税金資産		
減価償却超過額	1,383百万円	1,761百万円
投資有価証券評価損	24	50
資産除去債務	107	122
繰越欠損金(注2)	4,045	4,556
未払事業税損金不算入	81	155
未払費用損金不算入	187	236
契約負債	72	79
譲渡制限付株式報酬	-	31
その他	58	76
繰延税金資産小計	5,961	7,069
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 (注2)	4,043	4,554
将来減算一時差異等の合計に係る 評価性引当額	244	325
評価性引当額小計(注1)	4,287	4,880
繰延税金資産合計	1,673	2,188
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	547	690
資産除去債務に対応する除去費用	21	15
繰延税金負債合計	568	706
繰延税金資産の純額	1,104	1,482

(注) 1. 評価性引当額が592百万円増加しております。この増加の主な内容は、連結子会社において税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額を511百万円追加的に認識したことに伴うものであります。

(注) 2. 税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

前連結会計年度(2024年12月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金()	-	56	12	36	29	3,910	4,045
評価性引当額	-	56	12	36	29	3,908	4,043
繰延税金資産	-	-	-	-	-	2	2

税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

当連結会計年度(2025年12月31日)

	1年以内	1年超 2年以内	2年超 3年以内	3年超 4年以内	4年超 5年以内	5年超	合計
税務上の繰越欠損金()	40	50	37	25	14	4,388	4,556
評価性引当額	40	50	37	25	14	4,387	4,554
繰延税金資産	-	-	-	-	-	1	1

税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前連結会計年度及び当連結会計年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」（令和7年法律第13号）が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以後開始する連結会計年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年1月1日以後開始する連結会計年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.62%から31.52%に変更し計算しております。

この変更により、当連結会計年度の繰延税金資産（繰延税金負債の金額を控除した金額）が39百万円増加し、法人税等調整額が39百万円減少しております。

(企業結合等関係)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

当社は、2025年6月25日開催の取締役会において、株式会社エヒメスポーツエンターテイメントとの資本業務提携契約の締結、及び同社の第三者割当増資引受により株式を取得し、子会社化することについて決議いたしました。当該決議に基づき、同日付で契約を締結、2025年6月26日に出資を実行いたしました。

被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 株式会社エヒメスポーツエンターテイメント

事業の内容 プロバスケットボールクラブ「愛媛オレンジバイキングス」の運営

企業結合を行った主な理由

当社は「チームワークあふれる社会を創る」ことをパーパスとし、テクノロジーを用いて、チームワークに課題を抱える組織（主に民間企業、公共組織等）を支援してきました。これをさらに進化させるためには、ITツールだけでなく、社会的なしくみ、文化形成等が必要と感じております。そこで、これまでの組織支援で培った技術・ノウハウを「まち（地域）」に提供する方法を探求するため、「チームワークあふれるまちづくり室」を設立します。地域がITを活用して1つのチームとなり、情報共有や対話が促進され、主体的に社会課題が解決される、そんな「チームワークあふれるまち」の実現を目指し、創業の地である愛媛から挑戦をはじめます。

プロスポーツチームは、その存在によって、コミュニティが形成され、地域が活性化し、そのまちの誇りとなり、一体感がつくられる等、地域そのものをワンチームにできる力があると考えています。これは当社が目指す方向性とも親和性が高く、長期的に支援することを目的に資本業務提携契約を締結し、筆頭株主となることに合意いたしました。従って、当該株式は売買を目的として取得するものではなく、長期保有を前提としています。

企業結合日

2025年6月26日（株式取得日）

2025年6月30日（みなし取得日）

企業結合の法的形式

現金を対価とする第三者割当増資引受による株式取得

結合後企業の名称

変更はありません。

取得した議決権比率

50.15%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したためであります。

(2) 連結財務諸表に含まれる被取得企業の業績の期間

2025年7月1日から2025年12月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	165百万円
取得原価		165百万円

(4) 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 26百万円

(5) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん

111百万円

発生原因

今後の事業展開によって期待される超過収益力から発生したものであります。

償却方法及び償却期間

10年にわたる均等償却

(6) 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産 329百万円

固定資産 10百万円

資産合計 340百万円

流動負債 177百万円

固定負債 57百万円

負債合計 234百万円

(7) 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及びその算定方法

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

当社は、本社オフィス等の不動産賃貸借契約に基づき、退去時における原状回復に係る債務を資産除去債務として認識しておりますが、当該資産除去債務の一部に関しては、資産除去債務の負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっております。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を取得から4年～15年と見積もり、割引率は 0.08%～0.54%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
期首残高	130百万円	161百万円
有形固定資産の取得に伴う増加額	30	-
時の経過による調整額	0	0
資産除去債務の履行による減少額	-	-
その他増減額(は減少)	-	-
期末残高	161	162

また、資産除去債務の負債計上に代えて敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積り、そのうち当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法を用いているものに関しては以下の通りであります。

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
期首残高	156百万円	190百万円
資産除去債務の履行による減少額	5	-
当連結会計年度の負担に属する償却額	40	36
その他の増減額(は減少)	-	-
期末残高	190	227

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

収益認識の時期別に分解した顧客との契約から生じる収益は以下のとおりです。

なお、当社グループ（当社及び連結子会社）の報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、セグメントごとの記載を省略しております。

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
一時点で移転される財又はサービス	717	797
一定期間にわたり移転される財又はサービス	28,958	36,633
顧客との契約から生じる収益	29,675	37,430
外部顧客への売上高	29,675	37,430

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「（連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項） 4. 会計方針に関する事項（4）重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 顧客との契約から生じた債権及び契約負債の残高等

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
顧客との契約から生じた債権（期首残高）	3,419	4,212
顧客との契約から生じた債権（期末残高）	4,212	5,220
契約負債（期首残高）	3,838	4,867
契約負債（期末残高）	4,867	5,424

契約負債は、主に一定期間にわたり提供するサービス等の契約について、支払条件に基づき顧客から受け取った前受金であり、収益の認識に伴い取り崩されます。

前連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、3,193百万円であります。また、前連結会計年度における契約負債の残高の変動は、クラウドサービス等の契約に係る前受金の増加によるものであります。

過去の期間に充足した履行義務から、前連結会計年度に認識した収益の額に重要性はありません。

当連結会計年度に認識された収益の額のうち期首現在の契約負債残高に含まれていた額は、4,250百万円であります。また、当連結会計年度における契約負債の残高の変動は、クラウドサービス等の契約に係る前受金の増加によるものであります。

過去の期間に充足した履行義務から、当連結会計年度に認識した収益の額に重要性はありません。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

前連結会計年度末において、残存履行義務に配分した取引価格の総額は8,240百万円であり、前連結会計年度末から1年以内に約92%が履行され、約8%は1年を超えて履行される見込みであります。

当連結会計年度末において、残存履行義務に配分した取引価格の総額は9,314百万円であり、当連結会計年度末から1年以内に約94%が履行され、約6%は1年を超えて履行される見込みであります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

当社グループの報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

当社グループの報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えているため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載はありません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

	合計
減損損失	2百万円

(注) 当社グループの報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

	合計
減損損失	2百万円

(注) 当社グループの報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

	合計
当期償却額	5百万円
当期末残高	106百万円

(注) 当社グループの報告セグメントは「ソフトウェアの開発・販売」のみであり、その他の事業セグメントは開示の重要性が乏しいため、関連するセグメント名の記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
1株当たり純資産額	251円69銭	385円13銭
1株当たり当期純利益金額	74円99銭	153円17銭

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 2. 1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当連結会計年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	3,555	7,081
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	3,555	7,081
期中平均株式数(株)	47,406,986	46,233,149

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
1年以内に返済予定の長期借入金		11	1.63	
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)		24	1.16	2027年～2030年
合計		35		

(注) 1. 平均利率については、期末借入金残高に対する加重平均利率を記載しております。

2. 長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
長期借入金	8	6	6	4

【資産除去債務明細表】

本明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、資産除去債務明細表の記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における半期情報等

	第1四半期 連結累計期間	中間連結会計期間	第3四半期 連結累計期間	当連結会計年度
売上高 (百万円)	8,759	17,899	27,413	37,430
税金等調整前中間 (四半期)(当期)純利益 (百万円)	2,527	5,005	7,839	10,325
親会社株主に帰属する 中間(四半期)(当期)純利益 (百万円)	1,802	3,462	5,448	7,081
1株当たり中間 (四半期)(当期)純利益 (円)	39.00	74.91	117.85	153.17

	第1四半期 連結会計期間	第2四半期 連結会計期間	第3四半期 連結会計期間	第4四半期 連結会計期間
1株当たり四半期純利益 (円)	39.00	35.90	42.94	35.33

(注) 第1四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間に係る財務情報に対するレビュー : 無

2 【財務諸表等】

(1) 【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当事業年度 (2025年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,896	9,347
売掛金	1 4,211	1 5,145
未収入金	1 1,092	1 1,273
仕掛品	2	12
貯蔵品	31	33
前払費用	819	1 1,026
その他	1 253	1 285
貸倒引当金	2	2
流動資産合計	10,305	17,121
固定資産		
有形固定資産		
建物	616	508
工具、器具及び備品	3,778	4,224
建設仮勘定	-	45
有形固定資産合計	4,394	4,779
無形固定資産		
特許権	10	19
商標権	16	13
意匠権	2	1
ソフトウェア	413	582
電話加入権	0	0
無形固定資産合計	442	618
投資その他の資産		
投資有価証券	2,212	2,647
関係会社株式	506	698
長期貸付金	1 827	1 826
敷金及び保証金	747	739
破産更生債権等	0	0
長期前払費用	113	1 207
繰延税金資産	1,100	1,477
その他	3	3
貸倒引当金	827	826
投資その他の資産合計	4,684	5,773
固定資産合計	9,521	11,170
資産合計	19,827	28,292

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当事業年度 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	0	0
未払金	1 1,753	1 1,504
未払費用	1,331	1,565
未払法人税等	1,359	2,979
未払消費税等	471	892
契約負債	4,532	1 4,939
預り金	92	100
ポイント引当金	38	43
その他	16	21
流動負債合計	9,597	12,047
固定負債		
資産除去債務	161	162
固定負債合計	161	162
負債合計	9,759	12,209
純資産の部		
株主資本		
資本金	613	613
資本剰余金		
資本準備金	976	976
その他資本剰余金	4,045	4,129
資本剰余金合計	5,022	5,105
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	7,441	13,022
利益剰余金合計	7,441	13,022
自己株式	4,275	4,251
株主資本合計	8,802	14,491
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,265	1,591
評価・換算差額等合計	1,265	1,591
純資産合計	10,068	16,082
負債純資産合計	19,827	28,292

【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当事業年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
売上高	1 28,743	1 36,214
売上原価	2,902	3,399
売上総利益	25,840	32,814
販売費及び一般管理費	1, 2 19,884	1, 2 21,352
営業利益	5,955	11,462
営業外収益		
受取利息	1 46	1 47
受取配当金	17	20
投資事業組合運用益	-	13
受取手数料	1 114	1 130
貸倒引当金戻入額	-	0
協賛金収入	171	184
為替差益	273	-
会費収入	44	48
その他	23	18
営業外収益合計	689	465
営業外費用		
支払利息	0	0
貸倒引当金繰入額	78	-
業務受託費	131	131
売上債権売却損	46	58
投資事業組合運用損	31	-
為替差損	-	11
その他	9	1
営業外費用合計	298	203
経常利益	6,347	11,724
特別利益		
固定資産売却益	-	0
固定資産受贈益	-	81
特別利益合計	-	81
特別損失		
固定資産除売却損	3	0
投資有価証券評価損	-	79
関係会社株式評価損	1,337	1,485
特別損失合計	1,340	1,565
税引前当期純利益	5,006	10,241
法人税、住民税及び事業税	1,939	3,795
法人税等調整額	334	521
法人税等合計	1,604	3,274
当期純利益	3,401	6,967

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)		当事業年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)	
		金額(百万円)	構成比 (%)	金額(百万円)	構成比 (%)
労務費					
1. 給料手当		514	12.6	677	14.1
2. 賞与		78	1.9	110	2.3
3. 法定福利費		83	2.0	81	1.7
4. その他		5	0.1	7	0.1
経費					
1. 通信費		1,280	31.3	1,438	29.9
2. 減価償却費		1,639	40.1	2,047	42.5
3. 業務委託費		343	8.4	314	6.5
4. ソフトウェア償却		33	0.8	3	0.1
5. 地代家賃		55	1.4	71	1.5
6. その他		54	1.3	64	1.3
当期総費用		4,088	100.0	4,816	100.0
当期商品仕入高		6		7	
期首仕掛品棚卸高		4		2	
合計		4,100		4,826	
期末仕掛品棚卸高		2		12	
他勘定振替	2	1,194		1,414	
売上原価		2,902		3,399	

(注) 1. 当社の原価計算は、個別原価計算による実際原価計算であります。
2. 他勘定振替の主な内訳は研究開発費であります。

【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	613	976	4,045	5,022	4,706	4,706	1,346	8,997	
当期変動額									
剰余金の配当					666	666		666	
当期純利益					3,401	3,401		3,401	
自己株式の取得							2,929	2,929	
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)									
当期変動額合計	-	-	-	-	2,735	2,735	2,929	194	
当期末残高	613	976	4,045	5,022	7,441	7,441	4,275	8,802	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	858	858	9,855
当期変動額			
剰余金の配当			666
当期純利益			3,401
自己株式の取得			2,929
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	407	407	407
当期変動額合計	407	407	213
当期末残高	1,265	1,265	10,068

当事業年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

(単位：百万円)

	株主資本							自己株式	株主資本合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
当期首残高	613	976	4,045	5,022	7,441	7,441	4,275	8,802	
当期変動額									
剰余金の配当					1,386	1,386		1,386	
当期純利益					6,967	6,967		6,967	
自己株式の処分			83	83			24	107	
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）									
当期変動額合計	-	-	83	83	5,580	5,580	24	5,688	
当期末残高	613	976	4,129	5,105	13,022	13,022	4,251	14,491	

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	1,265	1,265	10,068
当期変動額			
剰余金の配当			1,386
当期純利益			6,967
自己株式の処分			107
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	325	325	325
当期変動額合計	325	325	6,014
当期末残高	1,591	1,591	16,082

【注記事項】

(重要な会計方針)

1．有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式及び関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しております。

(2) その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの

時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）を採用しております。

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法を採用しております。

なお、投資事業有限責任組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

2．棚卸資産の評価基準及び評価方法

仕掛品

個別法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

貯蔵品

先入先出法による原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）を採用しております。

3．固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

主として定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以後に取得した建物附属設備については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりです。

建物	5～18年
工具、器具及び備品	3～15年

(2) 無形固定資産

市場販売目的ソフトウェア

見込販売可能期間（12ヶ月）における見込販売収益に基づく償却額と見込販売可能期間に基づく定額償却額のいずれか大きい額により償却しております。

自社利用ソフトウェア

社内における利用可能期間（5年）に基づく均等償却によっております。

その他の無形固定資産

定額法を採用しております。

4．外貨建資産又は負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は当事業年度末日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) ポイント引当金

パートナー企業に付与したポイントの使用に備えるため、将来の使用見込額を計上しております。

6. 重要な収益及び費用の計上基準

当社の主要な事業はソフトウェアの開発・販売であり、顧客との契約から生じる収益に関する主な履行義務の内容及び当該履行義務を充足する通常の時点（収益を認識する通常の時点）は以下のとおりであります。

なお、取引の対価は、契約における支払期限に応じて履行義務の充足前又は履行義務の充足後概ね6か月以内に受領しており、重要な金融要素は含まれておりません。

(1) ソフトウェアのクラウドサービス

当社におけるソフトウェアのクラウドサービスは、契約期間にわたるクラウド上のソフトウェアへのアクセス環境及びサポートの提供が主な履行義務であります。当該取引は、契約期間にわたり均一のサービスを提供するものであるため、時の経過に応じて履行義務が充足されると判断し、顧客との契約期間に従い一定期間にわたって収益を認識しております。

(2) ソフトウェアのライセンス販売

当社におけるソフトウェアのライセンス販売は、顧客との契約に基づき、パッケージ製品を販売することが主な履行義務であります。当該取引は、顧客へパッケージ製品を引き渡し、ソフトウェアが使用可能となった時点で履行義務が充足されるため、当該時点で収益を認識しております。

また、パッケージ製品に関連する継続した保守サービス等は、契約期間にわたる保守サービスの提供が主な履行義務であります。当該取引は、契約期間にわたり均一のサービスを提供するものであるため、時の経過に応じて履行義務が充足されると判断し、顧客との契約期間に従い一定期間にわたって収益を認識しております。

(3) ソフトウェアの請負開発契約等

当社におけるソフトウェアの請負開発契約等は、顧客との契約に基づくソフトウェアの開発等が主な履行義務であります。当該取引は、ごく短期間の契約を除き、プロジェクト進捗による履行義務の充足に伴い一定期間にわたって収益を認識しております。

(重要な会計上の見積り)

繰延税金資産の回収可能性

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

(単位：百万円)

	前事業年度	当事業年度
繰延税金資産（繰延税金負債と相殺前）	1,669	2,184

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表「注記事項（重要な会計上の見積り）繰延税金資産の回収可能性」に記載した内容と同一であります。

(会計方針の変更)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日）及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日）を当事業年度の期首から適用しております。なお、財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

損益計算書

前事業年度において、「営業外収益」の「その他」に含めておりました「会費収入」については重要性が高まったため、当事業年度から区分掲記しております。この表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前事業年度の損益計算書において、「営業外収益」に表示しておりました「その他」67百万円は、「会費収入」44百万円及び「その他」23百万円として組替えております。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務

	前事業年度 (2024年12月31日)	当事業年度 (2025年12月31日)
短期金銭債権	142百万円	235百万円
長期金銭債権	827百万円	857百万円
短期金銭債務	1,044百万円	782百万円

2 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行4行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。

事業年度末における当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高等は次のとおりであります。

	前事業年度 (2024年12月31日)	当事業年度 (2025年12月31日)
当座貸越極度額 及び貸出コミットメントの総額	4,350 百万円	4,350 百万円
借入実行残高	- 百万円	- 百万円
差引額	4,350 百万円	4,350 百万円

(損益計算書関係)

- 1 関係会社との取引に係るものが次のとおり含まれております。

	前事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当事業年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
営業取引		
売上高	184百万円	139百万円
販売費及び一般管理費	1,583百万円	1,442百万円
営業取引以外の取引高	155百万円	162百万円

- 2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度53.6%、当事業年度52.8%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度46.4%、当事業年度47.2%であります。
販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)	当事業年度 (自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)
人件費	7,357百万円	7,851百万円
業務委託費	2,283百万円	2,078百万円
広告宣伝費	4,911百万円	5,596百万円
減価償却費	636百万円	623百万円
貸倒引当金繰入額	0百万円	0百万円

(有価証券関係)

前事業年度(自 2024年1月1日 至 2024年12月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額は子会社株式458百万円、及び関連会社株式48百万円)は、市場価格のない株式等であるため、記載しておりません。

当事業年度(自 2025年1月1日 至 2025年12月31日)

子会社株式及び関連会社株式(貸借対照表計上額は子会社株式649百万円、及び関連会社株式48百万円)は、市場価格のない株式等であるため、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2024年12月31日)	当事業年度 (2025年12月31日)
繰延税金資産		
減価償却超過額	1,383百万円	1,761百万円
投資有価証券評価損	24	50
関係会社株式評価損	3,161	3,723
貸倒引当金繰入超過額	254	261
未払事業税損金不算入	81	154
未払費用損金不算入	172	222
資産除去債務	107	122
譲渡制限付株式報酬	-	31
その他	30	38
計	5,216	6,367
評価性引当額(注)	3,547	4,182
繰延税金資産合計	1,669	2,184
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	547	690
資産除去債務に対応する除去費用	21	15
繰延税金負債合計	568	706
繰延税金資産純額	1,100	1,477

(注) 評価性引当額が635百万円増加しております。この増加の主な内容は、関係会社株式評価損に係る評価性引当額を561百万円追加的に認識したことに伴うものであります。

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

前事業年度及び当事業年度は、法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。

3. 法人税等の税率の変更による繰延税金資産及び繰延税金負債の金額の修正

「所得税法等の一部を改正する法律」(令和7年法律第13号)が2025年3月31日に国会で成立し、2026年4月1日以後開始する事業年度より「防衛特別法人税」の課税が行われることになりました。

これに伴い、2027年1月1日以後開始する事業年度以降に解消が見込まれる一時差異等に係る繰延税金資産及び繰延税金負債については、法定実効税率を30.62%から31.52%に変更し計算しております。

この変更により、当事業年度の繰延税金資産(繰延税金負債の金額を控除した金額)が39百万円増加し、法人税等調整額が39百万円減少しております。

(企業結合等関係)

連結財務諸表「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(収益認識関係)

収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期償却額 (百万円)	当期末残高 (百万円)	減価償却 累計額 (百万円)
有形固定資産						
建物	616	1	0	109	508	813
工具、器具及び備品	3,778	2,853	0	2,407	4,224	8,884
建設仮勘定	-	45	-	-	45	-
有形固定資産計	4,394	2,901	0	2,516	4,779	9,697
無形固定資産						
特許権	10	16	-	7	19	-
商標権	16	0	-	3	13	-
意匠権	2	-	-	0	1	-
ソフトウェア	413	301	-	132	582	-
ソフトウェア仮勘定	-	300	300	-	-	-
電話加入権	0	-	-	-	0	-
無形固定資産計	442	619	300	143	618	-

(注) 工具、器具及び備品の増加のうち、主なものは、クラウドサービス用のサーバー増設等であります。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期増加額 (百万円)	当期減少額 (百万円)	当期末残高 (百万円)
貸倒引当金(流動)	2	0	0	2
貸倒引当金(固定)	827	0	1	826
ポイント引当金	38	81	76	43

(注) 引当金の計上の理由及び額の算定方法は「注記事項(重要な会計方針) 5. 引当金の計上基準」に記載の通りであります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日、12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告により行う。ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告による ことができないときは、日本経済新聞に掲載する。 公告掲載URL https://cybozu.co.jp/company/ir/public-notice/
株主に対する特典	該当事項はありません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社は、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度（第28期）（自 2024年1月1日 至 2024年12月31日）2025年3月28日関東財務局長に提出。

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2025年3月28日関東財務局長に提出。

(3) 半期報告書及び確認書

第29期中（自 2025年1月1日 至 2025年6月30日）2025年8月8日関東財務局長に提出。

(4) 臨時報告書

2025年2月12日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号の規定に基づく臨時報告書であります。

2025年3月31日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2の規定に基づく臨時報告書であります。

2025年4月3日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2の規定に基づく臨時報告書であります。

2025年6月25日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第3号の規定に基づく臨時報告書であります。

2026年2月10日関東財務局長に提出。

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号の規定に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2026年3月27日

サイボウズ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 成 島 徹

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寺 田 裕

< 連結財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサイボウズ株式会社の2025年1月1日から2025年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サイボウズ株式会社及び連結子会社の2025年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

サイボウズ株式会社の繰延税金資産の回収可能性に関する判断の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>サイボウズ株式会社の当連結会計年度の連結貸借対照表において、繰延税金資産1,482百万円が計上されている。連結財務諸表注記「(重要な会計上の見積り)」及び「(税効果会計関係)」に記載のとおり、繰延税金負債との相殺前の繰延税金資産の金額は2,188百万円である。このうち、サイボウズ株式会社が計上した繰延税金資産(繰延税金負債との相殺前)の金額は2,184百万円であり、99%を占めている。</p> <p>サイボウズ株式会社の繰延税金資産の回収可能性は、「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準委員会 企業会計基準適用指針第26号)で示されている会社分類の妥当性、将来の課税所得の十分性、将来減算一時差異の将来解消見込年度のスケジュールに用いられる仮定に依存し、これらは経営者の重要な判断と見積りの要素を伴う。</p> <p>以上から、当監査法人は、親会社であるサイボウズ株式会社の繰延税金資産の回収可能性に関する判断の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、「監査上の主要な検討事項」に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、サイボウズ株式会社における繰延税金資産の回収可能性に関する判断の妥当性を評価するため、主に以下の手続を実施した。</p> <p>(1)内部統制の評価 繰延税金資産の回収可能性に関する判断に関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価した。評価に当たっては、繰延税金資産の回収可能性に関連する計算資料の作成及び計算結果に関する承認の統制に特に焦点を当てた。</p> <p>(2)繰延税金資産の回収可能性に関する判断の妥当性 当監査法人は主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」に基づく会社分類の妥当性について検討した。特に、近い将来に経営環境に著しい変化が見込まれるかどうかの経営者の判断の妥当性を確かめるため、経営者に経営戦略に関する質問をしたほか、売上予測について利用可能な外部データとの比較及び過去実績からの趨勢分析を行った。 ・繰延税金資産の回収可能性に関する判断に利用される将来の課税所得の見積りの前提となった事業計画が、取締役会で承認を得られていることを確かめた。 ・将来の課税所得の見積りの合理性及び実現可能性を評価するため、前年度に見積った当年度の課税所得について、見積りと実績との比較を行った。 ・将来減算一時差異の将来解消見込年度のスケジュールの合理性を確かめるため、主要な仮定について経営者及び会社担当者への質問をするとともに、関連する内部資料の閲覧、資料間の金額の照合をした。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・ 連結財務諸表に対する意見表明の基礎となる、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、連結財務諸表の監査を計画し実施する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、サイボウズ株式会社の2025年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、サイボウズ株式会社が2025年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・ 財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・ 内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手するために、内部統制の監査を計画し実施する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指揮、監督及び査閲に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

< 報酬関連情報 >

当監査法人及び当監査法人と同一のネットワークに属する者に対する、会社及び子会社の監査証明業務に基づく報酬及び非監査業務に基づく報酬の額は、「提出会社の状況」に含まれるコーポレート・ガバナンスの状況等 (3)【監査の状況】に記載されている。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

1 . 上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
2 . XBRLデータは、監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2026年3月27日

サイボウズ株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 成 島 徹

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 寺 田 裕

< 財務諸表監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているサイボウズ株式会社の2025年1月1日から2025年12月31日までの第29期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、サイボウズ株式会社の2025年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定（社会的影響度の高い事業体の財務諸表監査に適用される規定を含む。）に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

（繰延税金資産の回収可能性に関する判断の妥当性）

個別財務諸表の監査報告書に記載すべき監査上の主要な検討事項「繰延税金資産の回収可能性に関する判断の妥当性」は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「サイボウズ株式会社の繰延税金資産の回収可能性に関する判断の妥当性」と実質的に同一の内容である。このため、個別財務諸表の監査報告書では、これに関する記載を省略する。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 報酬関連情報 >

報酬関連情報は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1．上記の監査報告書の原本は当社（有価証券報告書提出会社）が別途保管しております。
- 2．XBRLデータは、監査の対象には含まれていません。